259.5
60

0052758000

0052758-000

259. 5−60

社会教育叢書

文部省社会教育局・編

文部省社会教育局

第２５輯

昭和５

AHP

259.5
60

エトP10

ラヂオと社會教育

社會教育叢書

第二十五輯

文部省

0756-38

社會教育叢書第二十五輯

ラヂオと社會教育

昭和六・三・二三

東京府 寄贈本

259.5-60

凡例

今日、社會教育機關として、最も普遍的な力を持つてゐるものは、恐らく圖書とラヂオとであらう。然るに前者は、圖書館の普及發達と相俟つて、漸次社會教育的意義を加へつゝあるが後者の積極的利用は、未だ殆んど考究されてゐない。

尤も、如何にラヂオが、社會的に普遍的な力を及ぼすとするも、たゞそれだけの理由で、直にこれを社會教育の手段に採用することは出來まい。新しい技術を通じての教育であるがために、他の如何なるものの追隨をも許さぬ長所があると同時に、短所のあることも見逃し得ないからである。玆に於て、放送者側に於ても、聽取者側に於ても、先づ社會教育の見地から、これを吟味しなければならない。これを吟味し、その利用方法を考究した上でなければ、ラヂオの普遍、迅速と云ふ長所も、充分な活用を見ることは出來まいと思ふ。

本輯は、それらの考究の參考に資せんが爲、獨、英、米の資料中より、專ら「ラヂオと社會教育」に關する論文を蒐集せるものである。

昭和五年八月

文部省社會教育局

目次

ラヂオの教育的意義……獨逸國務大臣ドクトル ツエー・ハー・ベッケル…一
ラヂオ教育及教育的ラヂオ……プロフエッソルドクトル エフ・ランペ…二
餘暇とラヂオ ——獨逸に於ける教育放送の概況——…… 〃 一三
ラヂオと地方の社會教育……ライン、マイン社會教育聯盟長ドクトル カール・グプハルト…二〇
トーキー、ラヂオ、テレヴィイジョン、將來の劇場……ハー・ライゼガング…三六
新しき道……ラインハルト・リーベ…四六
リーベ氏の「新しき道」を讀みて……ロベルト・フォン・エルトベルク…五〇
ラヂオに依る社會教育の可能性……ルドルフ・ショツトレンデル…五四
ラヂオ民衆大學……ドクトル ハンス・ハルトマン…六二

民衆大學寮に於けるラヂオ……………………ギュンテル・クロルチヒ…六六
英國に於ける教育放送……………………………………………七三
ロシアに於けるラヂオの利用……………………サミユエル・ハーパー…八〇

ラヂオの教育的意義

獨逸國務大臣 ドクトル　ツェー・ハー・ベッケル

新技術の發明　鐵道、市街軌道が電化され、更に自動車の出現と共に、人や貨物の運送に一變動を來して以來、未だ七十年は過ぎてゐないが、其後、電話、無線電信、最後に、ラヂオの凱旋行列が、陸續として續いた。これらの科學的基礎の上に立つ技術の發明は、先づ通信機關の上に非常な影響を與へた。この數十年間に於ける、凡ゆるかうした交通、通信機關完成の跡を知悉しない一般の人々にとつては、自然科學及技術研究の、この驚く可き結果と、日と共に進み日と共に新たなる、これら凡ての發明の思ひがけざる實際的有用性とは、殆んど理解し難きほどである。而して、學校、教師、教育家に對しても、これらの發明中最も若い發明であるラヂオの前に、用心深く手を控へてゐる時代は既に過ぎ去つた。確かに、青年教育の目的にも、ラヂオを利用しなければならないのである。

ラヂオの教育的利用　幸ひ、國の遞信行政がとつた方針は、將來を察するの明ある卓見であつた。法律と指令と管理とは、ラヂオより、活動寫眞界に見る樣な純營利的企業の生れることを、決して許さなかつた。この爲に、活動寫眞に於ては、國營製作所設立の時機を失したことと、公の組織を缺いたことゝの爲に、後に至つて、これを社會教育の一機關たらしむるに、色々な困難を伴ふたのであつたが、ラヂオにあつては、遞信省は最初から、國民陶冶と、近年目ざましい繁榮を見、現今又再び凋落の傾ある民衆大學運動との用に、供することが出來た。然し乍ら、更に一層

ラヂオを教育上に利用し、教育界に有用なものたらしむる爲に、これ迄旣に、社會教育的フィルムの振興に幾多の貢献をなした「教育及教授中央研究所」(Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht)が、「ラヂオと學校」なる幟の下に、現在及將來に對するこの問題の解決と、研究とに、力を致すこととなつた。

ラヂオの教育的意義 學校のラヂオに對する立場から見て、特に四つの見解が重要である。卽ち物理學的、技術的、教授法的、並に社會學的見解これである。學生は、就中物理學の時間に、ラヂオ技術に對する自然法則とその意味とを學ぶ可きである。彼等は又進んで、ラヂオ器の製作に立派な腕を持つものでなければならぬ。更に、ラヂオによつて放送される內容の、材料選擇と吟味との問題の場合や、又ラヂオを實際教授に利用しようとするに當つては、ラヂオは重要な教授法の問題となつて來るであらう。なぜならば、成長期にある青年は、出來るだけ獨立自學的に教育してゆかねばならぬからである。然し共同的硏究の教育上に及ぼす效果は、學ぶことゝ敎へらるゝことゝによつて、青年を自發的共同に導く努力以上の效果を持つてゐると考へられるが、ラヂオは正にこの新しい共同の目的に有用なものとなることが出來る。ラヂオは、人と人とを相互に結びつけつゝ、青年をして一層意識的に、大きな社會的、文化的國民共同に、關與せしむることが出來る。斯くてラヂオは、その利用を過らない限り、共同社會の新建設を助成する偉大な一機關として、教育に役立つものである。

(Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht : Rundfunk und Schule, 1925)

ラヂオ教育及教育的ラヂオ

プロフェッソル ドクトル フェリックス・ランペ

ラヂオと大衆 マイクロフォンの前に立つて、或は講演をし、或は演奏をなすものは、その時自分は、或は貴族的な講壇を下り、或は權威を誇はるゝ舞臺を去つて、民衆凡ての中へ入つてゆくのであると云ふことを、はつきり知つてゐなければならぬ。その話を聞き、その音樂に耳を傾くる者は、單に專門家や、特種な識者や、或は又、語らるゝ科學や藝術や訓話や教授に興味を有する、選ばれた一部のものゝみではない。そのある所に於て、その敎養の程度に於て、極めて種々雜多な人々である。彼等の人生觀、世界觀は遠く相距り、彼等の思惟も欲望も、彼等の感情も想像力も、全く相異れる人生目的を目ざしてゐる。多くは極めて偶然に、然らざる者も單なる好奇心から、コンデンサーを手にして、その話なりそのテーマなりに接するに過ぎない。偶々藝術的な教養を深め、何かを學ばうとして、眞面目に放送を聽取しようとする者があつても、多くはその眞の意を理解することが出來ず、誤りに導かるゝ者すらある。一體、今日の成人教育で最も困難な問題は、何よりも先に、民衆そのものゝ中に眞面目な教育的要求を覺ますこと、卽ち、殆んど知るに由なく、又あるにはあつても極めてまちまちな教養を土臺とし、極めて多樣な素質才能に基いて、一般の硏究心を喚起することである。現今に於けるこの種の教育の淺薄、一般民衆趣味の低劣、教育に對する無關心は、云ふも愚なことである。兒童期を過ぎた者は、何人も最早や教師のみに賴らうとはしない。而も殆んど凡

ての者が、何かしら智識を加へたいと希つてゐる。但し色々と人や物に縛られ、ぐた〳〵に疲れ切つて了ふ單調な日々の勞働の側らであるから、甚しい骨折なきを願ふのは勿論である。又、學校を出て以來、習つたことをすつかり忘れて了つたとか、少しも習つたことがないとか云ふ様な恥づかしい思ひをせずに、いくらでも凡ゆることに就て勉強したいとは、誰しも考へてゐることである。かゝる場合の助けとなるのがラヂオである。この目に見えない教師は、一々質問などしはしない。又我々が朝から晩まで、經濟や交通機關、購入や目下の者、親戚や目上の者、更に風習、思想に至るまで、ありと凡ゆる事に順應してゆかなければならぬと同じ樣に、服從しなければならぬ權威として、我々の前に立ちはしない。ラヂオは、何でも好きなものを聞く自由を許して呉れ、音樂會や講演會などでは、他の者がみんな殘つてゐる中を一人歸るわけにもゆかず、又仕拂つた入場料になんとなく縛られる感じがして、嫌々乍ら最後まで聞いて了ふ場合が少くないが、ラヂオなら嫌になつて切つて了つても、誰も氣にする者はない。然し放送する者の側に於ては、たゞ單にかうした民衆の心理のみが、簡單に考へられるに止まつてはならぬ。一方には、或は科學的な講演の形式により、或はニュースの方法によつて、出來る丈多くの聽衆を、朗讀や音樂の放送に結びつけるやうに努力しなければならぬ。即ち適切な方法を考へ、良い題目を捉へて、高價な放送をして效果あらしめ、耳のみならず、頭にも心にも、その放送が及んでゆく樣にしなければならぬ。然し今一つの見解は更に大切なことである。

文明の分化とラヂオ　日と共に加はりつゝある知識や技術は、教化財の分化を要求し、專門主義の發生と發展とを促す。ある考へ方からすれば、各部に分れて整然たる組織をなせる文化が、最高なものであり、個々のものが、内容的にも形式的にも全く特種なる時、完全なる文化が、その陰影に最も豐富である。然し他の見解より見れば、斯くの如く文化が、一般の平均的なものを離れて、特種なるものゝ多きを加へるのは、そこに陶冶の分裂を來し、文化の建設が、宛もバビロンの塔を今に繰返すが如き觀なしとしない。何人も他の者の考へは勿論、言葉も仕事も解らない。老幼男女を問はず、社會の如何なる階級も、人類の如何なる民族も、この分化と專門化とに直面して、國家生活に於ても經濟生活に於ても、又營業上の關係の場合でも、たゞお互に語り過ぎるのみで、そこに本質的な結びつきがないからである。人はたゞ限られた範圍に於てのみ名人巨匠たり得るのであるが、その境界は、他の凡てを隔つる高い石塀ではなく、何等視界を妨ぐることのない、四ツ目垣に等しいものでなければならない。然るにラヂオが、聽取者を、彼等の本來專門とする仕事以外の方面の諸活動に與らしむることの出來る可能性を持つてゐることは、專門分化のなくてならぬ補ひとなるものであらう。勿論ラヂオは、專門それ自身の研究にも役立つには違ひないが、それはたゞ書物とか、實際の話とか、その他各種の更に重要な研究補助方法の一助たるに過ぎない。從つて放送するに當つては、抑々放送の任務が那邊にあるか、——特種な知識、殊に小範圍に對する報知、限定された聽取者に對する指導等の取次をす可きものか、それとも、一般大衆を對象として、一般的關心のかゝる所の問題を説明す可きものであるか、即ち、靜かに深くその本質を見究めて初めて正しき理解に達することの出來る、あの人生觀、世界觀の問題や、色々複雜した事情や關係を、ラヂオは、簡單に説明し簡單に片づけて了ふものであると云ふ樣な妄想を、大衆の中に植ゑつけようと云ふ樣な意味ではなく、我が國民、我が民衆の中に於ける幾多の團體社會各々の、職業的、經濟的、精神的、特種生活の側らに、驚くほど多くの、色々な努力、色々な願ひ、色々な計畫と斷念、成功と失敗、つまり、恐らく何人に對しても、同じ價値と重要さとを持つであらう多くの事柄が存在してゐると云ふ意味に於て、廣い範圍の大衆を目ざして進む可きものであるかと云ふことは、はつきりと識つておかなければならない。斯くの如くして誰もが、世の凡ゆることに對して無關心には過ぎゆかれないのである。自分自らの意志を以て、取るか捨つるか、就く

か去りゆくかしなければならないのである。それは全く己れ自身に對する責任からしなければならないのである。かうした場合、ラヂオが我々の靜かな態度決定を容易にして與れることを、我々はラヂオに感謝するに違ひない。

ラヂオに就て考ふ可き三つの點　ラヂオ問題を如何なる方面から論ずるにしても、三つのことは明白である。第一ラヂオは新しい報道者として、人類に色々なものを齎らし、これによつて人類に影響を與へる。放送聽取の問題は、單に技巧や趣味や常識や、又それに對する專門の知識や能力や、音樂的或は修辭學的技能の問題ではなくして、最尙な意味に於て敎育的なものである。なぜならばラヂオは、人間より群衆への影響であるからである。而してその影響は、ラヂオの聲が印刷や論文より人格的であるために、音響上奇異な人格性を持つてゐると同時に、又一方に於てはラヂオの聲が全人間を表出することなく、純粹に精神的なもの丶みを我々に送るかの如く、凡ゆる具象的な姿を除外して了ふために、全く非人格的でもある。第二に、放送する者の側に大きな責任がある。放送プログラム選定の場合に既にさうである。なぜならば、——假に放送內容は全く別問題としても——放送は上述の樣に全く特種な形式の效果を有し、又聽取に際しても全く特種な機能を前提とするからである。然し第三には、聽取する者の側にも、はつきりした責任感が必要である。度々聞く苦情の中に、放送者側の技術上、組織上、內容上の缺陷の結果ではなくして、聽取者側の缺陷に基くものが少くない。即ちその地方の聽取條件や自分のラヂオ器のことを考へて滿足することを知らず、又ラヂオを聞くに全く偶然と氣まぐれであつて、そこに何等の系統なく、放送內容を選擇せず、つまりラヂオを聞くに精神的な準備がなく、ラヂオを聞いた後にこれを翫味する心がけのない樣な、聽取者自身の缺陷に基くものが少くない。ラヂオは極めて寬大な敎育家であつて、敎育者の權威を以て暗示的に感化を及ぼさうとする樣なことなく、第一聞くと云ふことそれ自身、まして況んや聞いたことを後で考へ直して見ると云ふ樣なことに就ては、內的にも外的にも全く聽取者の自由に委ねてゐるのであるが、却つてかうしたことの爲に、獨學自修の鼓舞者ともなり、聞く者の共同的硏究を促す結果にもなるのである。斯くの如くラヂオ聽取と云ふことに就ては、たゞ單にこれを技術的に理解するばかりでなく、精神的に學ぶ所がなくてはならぬ。

「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の敎育放送　ラヂオは深さの方面より寧ろ廣さの方面に發展した。從つてラヂオ自身の中から、未だ心理學も敎育學も生れてゐない。然し乍らこゝに獨特な一放送局あり、各地方の放送局が、娛樂放送や、音樂、朗讀又は劇の放送など一緒に放送してゐるもの以上に、專門並通俗敎育に奉仕したいと希つてゐることは、注意す可きことである。そして又この放送局が、その遠く國外にまで及ぶ放送力を以て、狹義の敎育放送、即ち敎育的內容を持つた放送を始めたことは、更に一層注目に値することである。これは "Die Deutsche Welle"（獨逸の波）放送局である。その放送形式が又最初から敎育的であつた。「敎育及敎授中央硏究所」（Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht）と協力して企畫した「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」放送局は、その初めての試みを實行するに當つて、多くのそして多方面に亙る小さな內容のものを色々に並べ立てることをせず、放送內容を、細心に選擇しよく考へて分類した。放送プログラムは、あれこれと手當り次第のものでなく、ずつと前からよく考慮した計畫と系統とに從ひ、又放送時間も飛び〳〵でなく、纒つた配列をなして編成された。「敎育及敎授中央硏究所」が最初からこの編成に當り、一般の放送方針や、個々の放送プログラム作成の目的から、一つの敎育委員會なるものをつくつた。一九一九年以來の獨逸共和國に於ても、獨逸の各邦は文化の自治を持つてゐるので、敎育委員會の是認した放送プログラムは、公表し放送するに先だつて、先づ各邦に於ける最高の學校及び敎育諸官廳に送付される。「敎育及敎授中央硏究所」が、「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」と協力して放送事業を引受けることになつたのは、一九二六年の一月以

來のことであるが、それ以前既に同研究所發行の雜誌「Z—I—フンク」の中に出來てゐた「棄報通告版」によつてケーニヒスヴステルハウゼンからの放送を聞く聽取者に對して、適當な時凡ゆることに注意を促し、よく考慮した教育放送に相應しく、よく準備の出來た教育的聽取がなされる樣になつてゐる。

「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の放送は、最初の内は、教育放送のみに限られてゐたが、段々發展するにつれて、醫師講座、官吏講座、法律家講座、勞働者講座、國民經濟講座、農業講座、主婦講座、子供講座など色々な新しい放送をする樣になつた。これに應じて「Z—I—フンク」誌の內容も擴大し、「D—W—フンク」と改名された。又放送が豐富になつた結果、間もなく「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の組織にも分化が必要となり、教師及學校を對象とした狹義の教育放送を、外形的には兎も角、內容的には全部教育的であるとは云へない廣い意味の教育放送から引離すことが望まれる樣になつた。これは教師及び——更により多く——生徒に對して、組織的に聽取することが出來る樣に、又聽取しやうと見込を立てたものに充分な準備をすることが出來る樣に、更に又聽取したことを後でよく研究して見ることの出來る樣にとの爲である。この爲に一九二八年四月一日以來、狹い意味に於て、本來の學校に教鞭をとる教師たちの要求に應ずる、月二回刊行の特別な雜誌「學校ラヂオ」(Der Schulfunk) が出されてゐる。なほ「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」は、聽取者の特別團體を分化的に教導してゆく爲と、差別なく勉學を志す凡ての人々の爲に、教育放送以外に、然しどこまでもラヂオ教育として、「成人教育」を行つてゐる。一九二七年に於ては、「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の凡ゆる催しの內、六十六%は職業教育的なもので、後の三十四%は一般陶冶に關するもので、九六八の一回講演又は連續講演であつた。斯くの如く文化の要求に應じて、特に教育的な任務を持つ「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の內的組織を、他の放送局に加へ、更に「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の內的組織を、分化充實せしめて着々ラヂオ教育の步を進めてゐる。

遞信、文部兩當局のラヂオ教育促進——教育者教育　一九二八年度の「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」の年鑑 (Jahrbuch der Deutsche Welle G.m. b. H. 1928) に、「中央研究所」長バラート博士が教育放送に就て述べて居るが、その中に「國の遞信行政が、ラヂオを營業者の手にまかせなかつたことは、文化的な立派な行爲である」と云つて居る。とは云へ——ラヂオも亦收入なしには存續することが出來ないのであつて、時としてラヂオを動かしてゆくものが、文化政策的考慮に出づるよりも、寧ろより多く財政的考慮の結果であることがないことはないが、假令さうであつたにしても、教育者たちは、放送したり聽取したりしてゐる間に、以前よりずつと廣い範圍に亘り、しかも言語によるよりも遙かに端的に、互に相接觸することの出來ることを、ラヂオ管理の當局に對して、感謝しないわけにはゆかないであらう。プロイセンの文部當局は、ラヂオが初めてこの世に生れた當時、ラヂオ技術發展の中から起つて來るであらう利益と危險とに、逸早く着眼し、ラヂオの技術的發展の觀察と、學校用聽取器の試驗と、教師に對するラヂオ技術の說明と、自然科學に於けるラヂオの取扱とを、「國立自然科學教授本部」(Die Staatliche Hauptstelle für den Naturwissenschaftlichen Unterricht) に一任し、ラヂオの教育上、教授上の完成と、學校に對する、又學校內に於けるラヂオの利用に關することゝを、「中央研究所」に委託した。「中央研究所」は、「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」と共同して、先づ第一に各種の教師及教育家の、教育並教授法方面に於ける補習教育促進に力を注ぎ、彼等に對してその使命の實行に充分な督勵と指導とを與へることを試みた。而してプロイセン文部省の配慮により、聽取器の數が段々と多くなり、一部の教師のみでなく、凡ての教師、凡ての共同研究會又は團體が、聽取器を利用することが出來る樣になつたので、恐らく今日では、一月のプログラムの教育放送は、「中央研究所」の開設された一九一五年三月二十一

日から、教育放送の始まつた一九二六年一月七日迄の間に於ける「中央研究所」主催の講演の凡てよりも、更に多數の教師、聽取者を持つてゐると、躊躇なく主張し得るであらう。かう云ふ風にして、直接の教育が非常に普及されたばかりでなく、教師たちは、教育雜誌や研究旅行や會議や講習などで、個人的に教育的な刺戟を受けてゐた以前よりは、ずつと速かに教育的な指導奬勵を享けることが出來るやうになつた。勿論以前から行はれて來た斯樣な雜誌とか研究旅行とか講習とか云つた樣な、教育を促進する凡ゆる補助方法は、講演者と個人的に接觸する爲に、親しく談り合つて印象を深める爲に、又問題を明にする爲に、どこまでも存續す可きものであるのみならず、出來る丈廣く普及助成しなければならぬものである。ラヂオ放送は又、講習や集合を訪れる人を督勵する一助となり、これらの催しの狀況、結果はラヂオで一般に報道され、特に重要な講演は、直接そのまゝ放送される。

父兄の爲の「教育相談」放送　然しパラートも云つてゐる樣に、教育放送の效果は、教育者教育に止まらない。學校の父兄たちが、專門教育者のみを對象としたものではない色々な教育的催しに、めつたに顏を出さないのは、必ずしも彼等が、教育者としての自分の任務を完ふするに如何なる點に不備缺陷があるかと云ふことを、自ら明かにしないがためではない。大抵は職業教育家が中心になつて音頭を取る斯樣な集會を、一種敬遠するのである。然るにラヂオに依る時、どう云ふお父さんでもお母さんでも、一人で或は小さな團ひと共に、教育に對する督勵と說明とを聞くことが出來る。「デイ・ドイッチエ・ヴェッレ」や「中央研究所」への投書が、この事實をよく說明してゐる。特に父兄のために放送される「教育相談」講座が、最も多く父兄たちを益することは云ふ迄もないが、その他の放送も喜ばしい反響を見てゐる。

斯くの如く「デイ・ドイッチエ・ヴェッレ」が「ケーニヒスヴステルハウゼン放送所」から放送した教育放送の、最初の二年間に於けるプログラムを纏めると大體左の通りである。

一、日常放送さるゝもの
　「教育相談」放送
　英語、フランス語、イスパニヤ語、スエーデン語
　(時々)の諸講座
　發音技巧及標準速記術講座

二、特別連續講座及講座數
　哲學及一般教育に關するもの　十五
　心理學及青年研究　十三
　一般的學校及授業問題　十九

三、教材及教授法に關する實際教授方面の放送とその數
　獨逸語　十九
　歷史、民族學及公民教育　十四
　地理學及鄕土誌　五
　古代語及現代語　八
　自然科學及數學　七
　藝術教育　八

學校音樂教授 四
體育 七
現在の映畫 二
ラヂオの技巧及教育 八
四、その他の放送及その數
職業學校及その授業に關するもの 八
職業學 二十六
青少年保護及青少年運動 十五
衛生學 八
特殊教育 四
在外獨逸人及在外獨逸人學校制度に關するもの 六

(Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht : Rundfunk-Empfang 1929)

餘暇とラヂオ

―獨逸に於ける教育放送の概況―

プロフェツソル ドクトル フェリックス・ランペ

○ **人生に於ける餘暇** 人の生活時間は、大體に於て、職業に要する時間と、食事、睡眠、或は住居又は食堂から仕事場へ赴くに要する時間とに二分される。然し人間は、各民族、各文化によつて程度の差はあるにしても、何等かの形に於て、生活の生物學的な要求、營業、勞作の經濟的な要求等に關係なく、全く自由な第三種の時間を必要とする。勿論この時間は、或は一日に於ての或時間、一週間に於ての或る休日、又は一ヶ年中の數日若くば數週といふが如きでも何れでもよい。而して此の時間に於ては、前記の如き必然的なものから全く解放されて、自己の主觀的な必要のまゝに、或は自ら進んで何等かの有用な仕事に就き、或は自分の傾倒してゐる何等かの社會の波にあてもなく乘つてゆき、或は自分を無拘束に何等かの主觀的な氣持や行動に委ねる。世界の各民族、同一民族間の夫々の仲間、老幼男女、同一國民中の各階級、これらの間に於ける餘暇の利用方法は、人類の生活樣態として、勞作のリズム、エネルギーの種類の多樣性よりも、一層著しい特徴のあるものであり、又睡眠や飮食の方法よりも、更に樣々なものである。素より、こゝに、過去及び現在、或は各民族、各文化に於ける餘暇の社會學を説明することは出來ない。唯、極く

値かな、然し重要な一部、即ち餘暇に於けるラヂオの意義を、而も吾が獨逸に關する限りに於て述べるに止める。

餘暇とラヂオ

ラヂオの聽取が職業上の生活に關係のあることは、誰も知る通りである。即ちラヂオは、天氣豫報、物價、相場、船舶に關する報道、詳細なる時事問題、多くの營業上、政治上の報告及びこれらと類似の職業上大切な事實を放送することによつて、時間を節約し、國と國との間の空間的離隔を撤廢して、各人の生活の基礎となるものを大いに擴充する意味に於て、勞働及び營業上極めて價値多い補助方法の一つに加はるものであることは誰も知る通りである。然しかうしたこと以外に、職業生活を緊張させるのでなく、寧ろこれを緩和し、氣分を轉換せしめ、樂しましめ、然も尙活力を與へ精神を向上せしめ、心靈的に豐富ならしむる場合がある。前記職業上の放送に於ては、農夫、商人、法律家、醫者、主婦、官吏、これら夫々のもの丶關心する所に役立てやうとして放送するものは、容易に而も判然と區分することが出來る。然し餘暇に對してラヂオが役立ち又役立たねばならない事柄に就いて考へると、我々の文化、文明の多種多樣性に氣付くであらう。

獨逸に於けるラヂオの任務を、放送する者の側から考察する時、直ちに我々の頭に浮んで來ることは、ゲーテの「ファウスト」の中で、劇場監督がうまく述べてゐる大衆取扱ひのこつである。

大衆を手に入れるには大量による外ありません、さうすれば結局めい〳〵何かしら探し出します。澤山持つて來れば、皆なに何かしらやれるわけで誰もが滿足して小屋を出てゆきます。

目で觀て大衆の要求に適合するものは、又耳にも滿足を與へるものである。然しラヂオに於ては、例へば同じ劇場監督が

「女客ときたら顏と衣裳を見せに來るので、先づ給料なしで一緒に芝居を見せて異れるやうなものさ」

と、言つてゐる樣な世態の暗示といふものがない。相當大きな映畫の紹介封切映寫の場合を除けば、活動寫眞館に於ての上映にも、同樣この點は缺けて居る。然も映畫藝術に於ては、觀衆の趣味及び希望を顧慮することが、却つて忌まはしい役割を演じてゐる。フィルムの製作や貸出しや、又活動寫眞館を所有することによつて、映畫に對する公衆の趣味、要求を敎導することは、殆んど行はれてゐないし、又今日では先づ出來ないことである。寧ろ敎育に對する觀衆の要求及びその能力を、誤解してゐる場合が少くない。又必ずや此の際、フィルム及びその上映によつて、如何程の利益ありやの打算が伴はれる。確かに、資本主義的な商量は、上述の如き民衆趣味の向ふ所、民衆娛樂の欲求する所、その背後に潛むことを好むのである。ラヂオは活動寫眞に於ける、かうした經驗を避けることに力めた。即ち問題が敎育に關する限りに於ては、私營に移すこと、又以前活動寫眞に對して當時各方面より推薦された如き方法による社會化、若しくば共同化を欲しなかつた。

敎育放送の組織と概況

獨逸に於ては遞信省が放送する。然しその放送內容の作成は、九個の地方放送局と、更に今一つの、最も廣い放送範圍と最も大なる放送能力を持つて居る「ディ、ドイッチエ、ヴェッレ」(Die Deutsche Welle)に委してある。何れも單なる娛樂や報告を擴めるに止まらず、或程度の文化放送者たる役割を完ふしなければならない。この他、全獨逸放送局の總元締として國家放送局(Reichsrundfunkgesellschaft)がある。この國家放送局は、自身放送するのではなくして、國內に於ける各放送局の統一を企圖し、又ラヂオの國際的協定に當つて、外國に對して代表者たる地位に立つものである。國家放送局の株式の大部分は遞信省が所有して居る。又前述十ケの放送局の株式の大部分は、國家放送局が所有して居る。換言すれば、放送局の事務取扱に對し、從つて又プログラム作成に就ても、國家が關係出來るやうに、既に純經濟的に準備が出來てゐるのである。

更に又各放送局は、事務監督顧問の外に「文化顧問」(Kulturbeirat)を設けねばならない。この文化顧問が、プログラム作成に與る。又各放送局長が、プログラム作成に協議のために、屡々會合すると同じ樣に、各放送局の文化顧問も時折集まつて、合同會議を開かなければならない。教員の補習教育のための教育ラヂオや、學校の授業に使用する學校ラヂオを放送する放送局には、更に別に學校監督官廳及び教員團を代表する教育委員會が設けられてゐる。而して夫々の委員會は、各放送局の放送が、時間的に抵觸したり、或は內容が豫期に反する如きことのないやう相互に補成し、連絡を保たなければならない。

ラヂオ放送の科學的、教育的研究 獨逸に於ては、斯くの如きラヂオの組織によつて、既に秩序あり統制ある社會教育的放送の道が拓かれ、單純な娛樂的のものでなく、青年並びに成人が餘暇に聽き、又聽いて價値ある放送が、ある程度まで行はれて居る。而してこれと同時に、放送の科學的、教育的な研究も、約一年前からなされて居る。即ち伯林工科大學、及び同じく伯林に在る國立音樂大學に於ては、——從つて少くともプロシャにはこの種の施設が二つあるわけである——ラヂオ放送の物理學的基礎及び藝術的效果の問題を專念に研究してゐる。先づ第一に震動の研究がなされて、音樂的な調子や人の言葉が、放送及び聽取裝置によつて、どういふ影響を受くるか、例へば如何なる陪伴音が各個の設備により吸收され、或は變形を受くるかと言ふ樣なことが研究されて居る。又震動を記錄し或はそれを蓄音器のレコードに吹込むことに依り、演奏者、歌手、講演者に、彼等がマイクロフォンの前で、どういふ風に演奏し講演したかと云ふことを、演奏或は講演の後直ちに聞かしむるに成功した。而して此の研究の結果は、國立音樂大學內に「ディ、ドイッチエ、ヴェレ」によつて設立されてゐるラヂオ講演者學校(Rundfunkrednerschule)に於て早速利用される。

一九二八年の春に「教育及教授中央研究所」の主催で、放送音樂に關する會議が開かれ、音樂家、技術家及び放送局の首腦者たちが集つて、意見の交換をしたが、斯かる會議は今後も續けられねばならぬものである。これまで述べて來た、ラヂオの組織上の運用、及び藝術的、講演的放送の取扱ひを技術上充分完全なものにするに就ての科學的研究と並んで、ラヂオ教育上の組織がある。劇場や音樂會、講演會や教室、さう云つた樣な所で經驗される人的、場所的な暗示を全く除去されてゐることの爲に、ラヂオ聽取者の陷る一種獨特な社會學的狀態は、教育的なある結果を伴ふものである。即ち想像の要求、感情の刺戟、及び提供された內容の熟慮翫味、これらは、純音響的な感受の場合には、他の感官が共に作用する場合とは機能的に同じでない。聽取者は大抵、その平常の環境に於て、自分に向つて流れ込む刺戟にふれてゐるので、放送內容に對する彼の判斷、一般的には彼の態度の獨立にも、全く別な要求がなされる。放送は總ての人に聽かれ得るものであるから、放送さるべき內容は、講演者や作家が、ある限定された專門家に對する場合よりも、一層注意深く且つ大衆的に作成されねばならない。兎に角、放送するに當つては、その內容の如何を問はず、ラヂオは、聽取者に特別な働を要求するものである。餘暇の凡てを、ラヂオの聽取に過す者も、若し放送の形式が彼等の心を捉へるものでなかつたなら、必ずしも誰もが、最初から少しも休まずに、放送に聽き入るとは限らない。これはよく考へておかなければならないことである。

聽取者の心得 然し第一に、獨逸に於ては、ラヂオを如何に受信すべきやが研究されねばならないことは明かである。一般にラヂオ聽取裝置を組立て又は組立てたものを買つたり、貰つたりした人は、ラヂオを繼ないだり切つたりする種々のボタンを廻轉して見て、何等かの音、音樂、演說等が聞えると喜ぶし、又非常に遠隔の地の放送局のを次々と聽取し得ることが出來るにつれ、その聽取範圍の場所的擴大を誇るものである。斯くて遠隔の地よりの響、音、

言葉の、純粹に感官による知覺の增す嬉しさに、益々努力し、又聴取裝置に金をかけるやうになる。然しこの際最も大切なことは、聴取した事柄を自分で仕上げることであることを識らねばならぬ。ラヂオは自己教育の促進者でなければならない。聴取者す可き材料をよく選擇し、聴取した事柄を、關聯した書物なり話なりによつて充分よく翫味消化することが出來て初めて、ラヂオは餘暇に對する價値ある教育的な補助手段となるのである。獨逸に於ては、ラヂオの放送、圖書の刊行及び講習會の開催によつて、かうした餘暇利用の教育が、よい效果を擧げてゐる。之を要するに、活動寫眞に於けると丁度同じ樣に、ラヂオそれ自體は善いのでも惡いのでもなく、唯、問題はそれを利用する方法如何にあるのである。

教育放送の樣式　聴取者に無味單調な内容のものをも受入れ易くするために、獨逸に於ては屢々數人の間に於ける對話の形式が放送に用ひられる。即ちその音聲が異ることだけでも聴くことを容易にする。對話に依つて自づから放送の内容が整理され、事柄が明確になる。一般に思惟の過程――正、反、合、――は、教授の組立及び發展に役立つものである。例へば英、佛語の出來る獨逸人が、マイクロフォンの前で英、佛人と話をしたなら、その發音的、言葉の音律的な事實が分明になる。又地理學者や傳記作者が、專門家でない旅行者と共に、遠い外國の風景、都市、動植物に就いて、その見聞を語るなら、類型的なものゝ特性の側らに、その瞬間の印象が躍如として來る。而して兩者の對立によつて初めて、風景や都市、植物や動物の生活が判然となり、而もその本質、その合法性が明らかになる。實際教授の生氣ある印象によつて、聴取者の教育を容易にするために、對話の外に更にマイクロフォンの前に、教室を全部そのまゝ持ち込むことが試みられてゐる。聴取者にとつては、ラヂオの聴取で勉强する方が、講習に加つたり、或は讀書その他の手段によるより容易であることや、又聴取者中には、他人に自分があれこれのことに就て教へを求め

てゐることを知られたくないと願ふ多少恥かしい學修者も少なくないことを、思ひ合せて考へて見ると、若しラヂオが愼重に放送され、又それに應じて聴取され了解されるなら、ラヂオが餘暇に對して持つ意義は、實に色々な姿となつて、豐富に湧いて來るであらう。

教育放送の聴取者　確かにまだラヂオは、獨り子供や青年からばかりでなく、成人からも理解されぬまゝに聴取されることが屢々ある。それ故殊に青年は、餘暇の爲に、職業的準備及び補習教育の爲に、スポーツ或は他の公共生活方面に於ける自己の立場、方向を定める爲に、ラヂオを盛んに利用して自己を教育しなければならない。かうしたことは、學校に於ては、教授に使用される學校ラヂオ放送の確實な選擇と、その思慮深き準備及び補充に依つてなされ得る。然し家庭の兩親も、どういふ風に子供と一緒にラヂオを聴き、子供と一緒にラヂオを經驗したらよいかと云ふことに就て、考へなければならない。ラヂオは家庭生活を豐富にする。ラヂオは友達の團ゐや、共同團體に於ける話題を供給する。青年教育家や青年宿泊所は、ラヂオを教育的に利用することが出來る。而もそれは、たゞ單に、一人ぼつちでゐる人の空間的な離隔を撤廢するのみでなく、一緒に生活してゐる者を、新しい内容の周りに糾合する。故に獨逸各地の公會堂に、擴聲器付きの聴取器が設けられ、其處に、その地方の人々が集まつて一緒に聴取し、又後で、教員や牧師や町村長等の適當なる指導の下に、聴取したことの内容に就て互に論ぜられてゐる。然し、かうしたことは未だ始まつたばかりである。聴取が喜びであることは、大いに技術に關係がある。然し、ラヂオに依つて聴取者の一人々々、並びに大衆に對して、餘暇を豐富なものにしやうとする社會教育の努力も、この技術的完成と相俟つて極めて大切なものである。

(Reichsausschuss der Deutschen Jugendverbände/Zentralinsitut für Erziehung und Unterricht : Bildung und Freizei.)

ラヂオと地方の社會教育

ライン、マイン社會教育聯盟長 ドクトル カール・ゲブハルト

本論文は、西南獨逸ラヂオ協會の「文化顧問」(Kulturbeirat) に於て發表され、內務省の手に依つて他の放送局へも配布された報告を轉載したものであつて、西南獨逸放送局區內の事情が、觀察の基礎をなしてゐることは云ふ迄もない。

今日の社會教育は、今以て二十五年前と殆んど同じ狀態にあるが、最近に至つて民衆娛樂と社會教育との中間に、新しい技術に依る一方法が出現した。この新しい方法が、どの程度まで眞に社會教育の役に立つものであるか、又社會教育を傷つくることなく、どの範圍まで民衆娛樂の中にその地步を保ち得るものであるか、これが今考へようとする問題である。

社會教育は、今日、ラヂオに對して、當時活動寫眞に於けるよりも遙かに有利な關係にある。活動寫眞は全く私的なものであつた。從つてフィルムに依る影響は、社會教育自身の力で出來る限りのものに止まらねばならなかつた。加ふるにこの影響も、一方に於ては工業資本力の關係より、他方に於ては大衆の感傷や興奮を刺戟する點より、非常に制限されたものであつた。これに反し、ラヂオは、獨逸に於ては最初から公のものであり、この新機械の取扱を監督する國家の側に於ても、ラヂオ制度の發達を左右する放送局の側にあつても、社會教育的關心を有效ならしめ、社會教育の爲に可及的援助を惜まざらんとする最善の意思があり意見がある。機會を失するの悔を後年に殘すことのない樣に、ラヂオを社會教育上の問題として極めて愼重に取扱ふ義務が、正にこゝから生れて來るのである。

一、ラヂオと現代の社會教育

嘗て、若しラヂオと云ふものがあつたならば、量を重んじた昔の社會教育は、その效果を高める上に、どんなにかこれを歡迎したことであらう。なぜなら、社會教育を擴める上から云つて、講堂などで百人や千人を相手にするのとは異なり、電波に依つて幾萬幾億の人々に呼びかけることのラヂオ以上に、何物をも望むことが出來ないからである。從つてこの種の社會教育のラヂオに對する要求は、唯單に多くの適當なるプログラムと云ふに過ぎなかつたであらう。が然し、一體現今の社會教育なるものは、その事態頗る錯綜せるものであつて、社會教育の文化的價値は、教ゆる者と聞く者との人間的共同、云ひ換へれば人間より人間への直接の交渉に依つてのみ、その效果を擧げ得ることを、我々はよく知つてゐる。然るにこの直接性、この交涉性がラヂオには缺けてゐる。この意味からして、ラヂオは全く社會教育の圈外にありとなし、社會教育の手段としてのラヂオを、簡單に否定するやうな結論に達する者があるのは、尤なことである。

然し乍ら、こゝに第一に考へなければならぬことがある。即ち社會教育が、自分の圍りに被教育者の一集團をつくると云ふことが、それ自身何等文化的價値の理由とはならぬと云ふことである。何よりも大切なことは、意義ある材料を生かすことであつて、何かに就てたゞ一緒に喋り散らしたからと云つて、それが直ちに社會教育講演のやうな古い方法以上に高い價値を持つてゐるとは思へない。然し我々は、現在、理想的な意味に於ける社會教育の力が、數に於て極めて貧弱なものであると云ふ事實を考へなければならない。これは社會教育を廣い範圍に及ぼすことが出來て

も同じことであらう。こゝに於て我々は、社會教育を主として小數の活氣ある團體の事柄となして、大衆を目標とせざるか、或は廣い範圍に亙る社會教育運動も可能であるやうな方法を求むべきかと云ふディレンマの前に立たなければならぬのである。學校教育に於てもこれに似たものがある。文化的に價値ある學校教育が、眞の教育者を俟つて、初めて爲されるものであることは、何人も否定しない所であらう。然も實際に於て、我々の學校が教師として要求する所の數多くの人々の内で、單なる職業としてゞなく、眞に天職としてその職に當然の權利を主張し得る者が、果して幾割あるであらうか（唯でも自分の記憶と體驗とからその割合を定めることが出來るであらう）。我々はこのとから、眞の教育者のある所にのみ學校教育が行はれ得るものであると云ふ結論を得べきか、或は更に進んで、人材の不充分なる所にも何等かの效果を擧げ得る樣に、諸設備を整へなければならぬと云ふ樣なことを、全く否認して了はなければならないであらうか。「初めに創造の業あるべし」とは、凡ての社會教育に云へる言葉である。然しこの「業」が、教師と聽講者との直接的な共同の内より起らないならば、――事實、創造的な人と云ふものは極めて尠く、これを相當確實な因子として何等かの勘定に入れることは出來ない、――社會教育の媒介に依り、「創造の業」が如何に遠くにあらうとも、これと民衆と相結びつける樣にしなければならぬ。

社會教育に於ける廉潔主義は、社會教育の清淨を意味するものであつて、我々の又奉ずる所であるが、若しこの主義に道德的品位を保たうと思ふならば、この主義だけでその要求が充たされ或は充たされ得ると云ふ樣な幻想に陷らぬようにしなければならぬ。理想とは、目的を立てることであつて、事實ではない。若し目的を立てることを以て直ちに事實と考へるならば、それは自己を欺くの甚だしきものである。專ら人の力にのみ依らうとする社會教育は、一種の敬虔團（collegia pietatis）になつて了ふ。尤も、その極めて小さな範圍に於ては、有益でもあり、生命の覺醒もあり、又文化の促進をも見ることが出來るであらうが、廣く社會教育の任務とする所は、かゝる敬虔主義のみでは果され得ない。社會教育も學校教育と同じく、設備を缺くことは出來ない。たゞこの設備を、魂の拔けた單なる道具となさずに、創造的生活に役立つものたらしむる人物が必要なのである。

若し社會教育なるものが、或る一定の文化上の理想、或は少し控目に云ふならば、或る一定の教育上の理想の表現であるならば、社會教育の概念は時と共に變化して行くものである。物質化され機械化された時代の表現たる、一八八〇年代、九〇年代の社會教育は、教化財に對する確信より出發した。而してこの豫定せられた教化財を、出來るだけ民衆一般の所有となすことを以て、その任務と考へてゐた。が、世紀の變る頃、この教化財に疑を持つ一種の社會教育が擡頭して來た。これは教育のための努力そのものゝ中に、社會教育の本質を認めようとするものであつたが、この社會教育も亦、時代の姿を示してゐる。即ち近代的相對主義の間から生じたものであつて、環境に對する人類の地位を教示し、眞面目なる勞働に對する人類の意義及び概念を闡明するを以て、社會教育活動の任務と考へた。然し大戰と共に始まつた大變動の只中にある今日の時代は、この種の社會教育の純粹なる見解を如何ほど高く評價しても、又この種の社會教育から如何に感謝を以てその確實な方法を借り來るにしても、かゝる社會教育の相對主義を以て滿足することは出來ない。現代の努力は、形式や方法に向はずして、内容と構成とに注がれてゐる。わけて現代に必要なものは、内容的に一定せる社會教育活動である。若し世界觀的に、又宗教的に、範圍を制限するならば、現代に於ても、かゝる活動を目の當り見る事が出來る。勿論こゝに云ふ社會教育的活動は、限られた意味のものでないから、かゝる制限せられた範圍に於けるものを以て、直ちにこれと比す可くもないが、斯るものにも亦形式的でなく、内容的に定められた價値が示される。あの價値は、創造するもの、と云ふ概念の内に與へられる樣に思はれるが、我々は

生活を、この創造するもの丶最も包括的なる自己表現と考へる。か丶る意味に於て、創造的生活と云ふ概念に自己の立場を見出す社會教育の目的は、生活を高めて、この創造的生活を意識せしむるにある。然しこれは、人生をたゞそのまゝに意識すると云ふ意味ではない。何者、こゝには生活を生活自身の充實から解決してゆかうと努力する合理化がある。人生は正に斯くの如く生きなければならぬ。否、體得しなければならぬ。個人の體得せられたる生命、それが自我であり、各個人の最大なる組織的統一體の體得せられた生命、それを民衆と呼ぶ。若し社會教育が、生命の問題である可きものならば、その任務は、自我と民衆とをして、各自の生命を意識せしむる所に求むべきではあるまいか。

この目的の下に活動する社會教育は、個人化し原子化することとなく、自我と民衆との内的結合に基づいた共同社會を形造る。民衆とは個人の單なる集團でもなく、又利に依つて結ばれて居る各種階級の累積でもない。各部分に全體が生きてゐる有機的統一體である。從つて我々の時代に於ては、民衆なる概念は一つの事實ではなくして、一つの問題を意味するものであると云ふことが直ちに云へる。各人を、個人以上のものに根ざす自我の意識に覺ましむることに依つて、この問題を解決するのが即ち社會教育の使命である。二代前に、民衆を陶冶することが社會教育の使命であると云つたとすれば、今日に於ても亦、民衆を陶冶することが即ち社會教育の使命であると、同じ言葉を繰返すことが出來る。然しその意味する所は、正に反對である。

社會教育のラヂオに對する關係如何と云ふ問題は、一見簡單であつて、以上述べることは、如何にも長たらしく繞遠な迂路の様に思はれるかも知れない。然し個々細部の問題に入る前に、一體社會教育より期待し得るものは何であるかと言ふ先決問題が、先づ第一に闡明されねばならぬ。若し社會教育の任務が、民衆と云ふものに向つて發展してゆく生命に、凡てを包括する有機的自我意識を覺醒するにあるならば、ある種の教授、尠くとも歴史的教授又は民族性の本質及意義に關する教授の方法などでは、この任務は果されない。寧ろ、時代の創造的生命を、民衆の間に生かすことを以て、社會教育の本質たらしめんとする方法に依つてのみ、この任務は果されるのであらうと思ふ。決定——創造的決定なるが故に斯く云ふことが出來ると思ふが、この決定なる作用は、藝術家の仕事場であれ、學者の研究室であれ(フィヒテの云ふ意味に於て)、或は又政治家の活躍する舞臺であれ、人生の最も意義深き所にのみ行はれるのである。然し時代の決定が小さき範圍に限られ、新しい決定が出來てから初めて、多くの者の認識に上ると云ふ様なものでなく、時代の運命を凡ゆる人の心と腦裡に生かすのが、社會教育の任務でなければならぬ。時代の生命が、凡ての者の生命に漲る時、そこにのみ民衆に生きるのであつて、これ以外に道はない。(こ丶に要求せらる丶社會教育が實現されても、決して過去と決裂するやうなことはない。寧ろ反對である。發展としての生命は、過去を是認し、過去を自己の内に包容する。ありし物に關する死んだ知識としての過去ではなくして、現在を、生命と緊張との充ち〱た昨日より明日への移り行きと解する一つの大きな傳統的關係の下に繋がる所の過去である。)

二、地方の社會教育

社會教育の問題を眞面目に熱心に考へる者は、誰しも、今日の大部分の民衆は全く時代の外に生きてゐることを知つてゐるであらう。このことは第一に農民に關して云ふことが出來る。この時代の外にあると云ふことが、現在なほその命脈を續けてゐる過去と云ふものに對する強い執著、固い結び付きを意味するのであるならば、我慢の出來ないことはない。然し國家がその傳統の保護者であつたのは既に過去のことであつて、十九世紀及二十世紀の變革の爲に、地方に於ても、その古來生粋の文化は排除されて了つた。このことは、地方の社會教育が、危なげな妄想より始めらる丶様な

ことのない爲に、正當に釋明しなければならぬ點である。地方に於ける個人生活の無自覺は、旣に過去のこととなつた。而して宗教的なるものにさへ、過去の傳統が存續せざる以上、地方に於ける固有の文化は、極めて限られたものである。正にこの故に、地方に於ける社會教育は(勞働者教育と相並んで)現代焦眉の問題である。何者、總じて農民(及勞働者)を、民衆の中へ導き入れることは、凡ゆる一般社會教育の必須條件だからである。然しこの場合、地方の農民又は勞働者と、效果多き、而して社會教育を永續的に爲し得るやうな關係に立つことは、極めて困難である。牧師と教師とは、成る程地方に於ける社會實行の第一人者であらう。然し彼等の仕事は、大都市からの助力に依つて補はれると云ふことは殆んど出來ない。たゞ自分の有するものを人に授けることが出來るだけである。從つて獨斷や自己滿足に陷る危險を免れないのであつて、そこにはどうしても補充や補助が必要である。即ち地方では、時代と云ふものが、他の所からも、人々に傳へられねばならぬのである。正にこゝに於て、ラヂオの助力を受くる必要が起つて來るのである。

三、ラヂオ講演の社會教育的價値

ラヂオ講演の社會教育的價値が論ぜらるゝ場合には、一般に、その講演が直接聽講者の前でなされるのでなく、組織上、數を定める事の出來ない多くの聽取者に、マイクロフォンを通じて傳へらるゝと云ふ事實から出發する。この場合ラヂオ講演が普通の講演に比して、その價値を云々さるゝに足るだけの或る種の短所を持つてゐることは最初より明白である。先づ第一に、講演者と聽講者との結合、即ち兩者が一堂に會する場合にのみ起り得る本來の共同經驗、交互作用がない。且つ又、社會教育の方法として、講演そのものが旣に問題となつてゐる今日、ラヂオ講演には、この交互作用以上に、なほ講演者と問答の關係に立つ可能性が缺けて居る。この論をつきつめて、結局ラヂオ講演には社會教育的效果は全然ないとまで云はれるに至つたのである。

然し、ラヂオ々講演の擴張と見ずして、音となつた印刷物と考へた方が、ラヂオ講演に對する一層正當な見方であらう。受けとられようと受けとられまいと、そこに存在してゐると云ふこと、又大部分語る者の發意に依つて爲さるゝ演說などゝは比較にならない程多くのものが、これを受取る者の感受力にあてがはれてあると云ふことなどは、ラヂオと印刷物に通ずる共通點である。斯くの如くラヂオを「語らるゝ印刷物」と考へる場合、印刷物に比して色々の缺點がないとは言へない。(例へば不明な場合、繰返しの不可能な如き)然し著者か彼自身の註釋者である場合に常に見らるゝ、或る種の人格化が行はれると云ふ長所もある。

印刷物に比してラヂオ講演の有する長所は、云ふ迄もなく、講演が受話機(ヘッドフォン)でなく擴聲機(ラウドスピーカー)に依て聽取さるゝ事を前提とする。受話機がラヂオの持ち得る社會教育的價値を著しく減殺する事は確かに否めないことである。語らるゝ言葉の波が、我々の周圍に響いて傳はつて來るのでないと、我々の聽覺は一種異樣な感じを抱かされる。丁度、何も彼も選ぶ所なく陸續として耳から腦へ忍び込んで來る稀代な系の樣な音の流れを感じ、講話の聽取と云ふ氣持ちと如何にもぴつたりしない。云ひかへれば、再び響となつて傳はる實際の言葉でないと、本當に講演の再現であるとは考へられない。

ラヂオに對して擧げ得る最も大きな非難は、ラヂオは何等の取捨選擇なく凡ゆるものをお構なしに我々にふりかけ、しかもラヂオを聞くことを、その技術的な遍在性の結果、何かの片手間仕事にして了ふと云ふことである。なほ現代に、分相應と云ふ感じの缺乏してゐることは、社會教育上洵に憂ふ可きことであるが、これが、ラヂオに依つて益々促進される結果になりはしないか。五時から六時まで戀情的なカフェー音樂を聞いて、直ぐ樣六時から七時までベート

ーヴェンの最後のソナタを聞くとしたら、或は又、ジヤガ芋の皮をむいたり靴下を編んだりし乍ら、同時にゲーテの悲劇の最も深刻な運命問題に與るとしたら、藝術に對する崇敬の念は、最後まで消え失せて了はねばならぬ。それ故かくの如く、裝置の技術的な變化につれて、聞くもの丶氣持を引きずり廻す樣なラヂオは、社會教育上の問題であると云はねばならぬ。

四、地方の爲の放送と其の實際方法

時代と人とを結び付ける方法として、ラヂオは地方に於て特に重要な意義を持つてゐる。大都會人は非常に複雜頻多な形で、時代を經驗してゐる。而して彼等にとつて、ラヂオは時勢と接觸する數多い手段の中のほんの一つに過ぎない。小都會に住んでゐる者が、最もラヂオに期待する所は、既に彼等が何等かの形に於て經驗し、又旅行に依つて知つてゐる大都會の生活に與ると云ふことである。大都市と小都市とに於けるラヂオの問題は、本質的に相違あるもの丶樣に見られない。然しラヂオと地方と云ふ、この問題は、全く特種な性質のものである。而してこの問題を解決することは、社會教育がラヂオに課すべき一任務である。この場合先づ明瞭にして置かなければならぬのは、この問題を解いたからとて、聽衆の數が著しく增すと云ふ樣なことはないと云ふ點である。それは村落のラヂオ加入者が、大抵限られたものであることを豫想し得る爲であるが、さうであればある丈ラヂオは、時代の任務の中、最も重要なるもの丶一つであり、又自分の助力を待たなければ到底解決し得られぬ重要な任務を帶びて活動するのであると云ふ自覺を持つべきである。

地方にラヂオを普及させるには色々の困難がある。第一ラヂオは、その頭初に於ては（現在もなほこの狀態を脫しないのであるが）全く大都市的なものであり、地方にゐる者には精神的な意味から云つて、何んとも仕樣のないもの丶樣に感ぜられる。又第二の困難は、技術上、その裝置が面倒なこと、機械の割合に高價なこと、又眞空管裝置の場合には、保存費の相當か丶ることなどであるが、其他聽取料の負擔の少くないことも亦ラヂオの普及を阻害する一原因である。殊にラヂオは農民にとつては、冬期だけのものである。而もこのために一々取消、申込の手續を繰返すも面倒で實行し難い。（この困難は、平均半年位しかラヂオを使用しない村落に對しては、月々の聽取料を下げる樣にしたら、容易に除くことが出來ると思ふ）ラヂオは今日既に地方にもかなり廣く及んではゐるが、それは元來教養の高い階級に限られてゐて、田舍に於ける社會教育の問題には考に入れる必要のないものである。近來は營業的な宿屋もラヂオの聽取に加入して來たが、然しそこでは、ラヂオはたゞ都市の娛樂の仲介に止まり、社會教育的效果のありさうな問題に關する放送になると、きまつて、中止されてしまふ。

擴聲機の設置　事實上、田舍にラヂオを入れようとするならば、村の社會教育上適當の場所に、擴聲機を一つ設置する以外に方法はなささうである。かくの如き擴聲機に依るラヂオの講演には、勢ひそれに應ずる丈の準備が必要になつて來る。人々は聽講の意志をはつきりさせて聽取室に入つて行かなければならぬ。又之に必要な準備も整へなければならぬ。從つて片手間に仕事をすることは出來ない。勿論斯樣なラヂオ講演は普通の講演と同じゆき方をしようとする必要はないし、又それは出來ないことである。然し我々は田舍に於て讀書の夕を開催し、一つの本を中心にして人々を集め、朗讀に依つてその本の内容を生々と感ぜしめ樣とするやうなことを行ふではないか。然らばこれと同じやうに、ラヂオで遠くへ放送される言葉が、感受性の強い耳や心に與へられてならぬと云ふことはあり得ない筈である。但し先づ何よりも聽衆の期待を裏切ることのない樣に、放送のプログラムも聽取者の期待に適するものでなけ

ればならぬのは勿論である。而して殊に重要に思はれるのは、自分で構成した思想を持つて居る者が放送することである。詩人の創作は、これを再現する藝術家を要求する。印刷物と演說との境に立つラヂオ講演は、一句〳〵の中に講演者その人の面影が如實に示されて、聽取者の耳に躍如としてふれ來るものでなければならぬ。從つてラヂオ講演をなすのに、文句を青きとらせて、これを他の話上手な者に放送させる如きは、聽衆を大都市に求むると小都市に求むるとを問はず排斥す可きことである。

仲介者　ラヂオが地方に於て社會教育上の價値を有し得るためには、先づ第一に放送を仲介する人間が必要であると云ひたい。地方の人々が、簡單な考へで擴聲機の前に立ち、音波に依つて傳へらるゝものを基にして、一體何を始めることが出來るのか出來ないのか一向頓着しないのは、よくないことである。こゝに於てラヂオ放送の仲介が必要になつて來る。即ちラヂオを中心とした會合を導いてゆく仲介者の必要が起つて來る。この仲介者は、ラヂオの放送をその地方の社會教育活動の中へ導き入れると共に、擴聲機が如何なる間に對しても啞であらねばならぬ場合、これに代つて話をし答をなすのをその任務とす可きである。要するに、こゝに要求する仲介者と云ふのは、上述の如き立場から、社會教育の活動に一責務を負ふ者に外ならぬ。此の場合必要なのは、地方に放送するラヂオのプログラムが、前以つて仲介者に告知され、仲介者はこれに對して必要な準備を整へることである。又ラヂオの放送の內如何なるものがその地方、その村に適當であるかを決定することも、同時に仲介者の任務でなければならぬ。何か簡單な通信で、適時次のプログラムを知らせて、その取扱ふ可き仕事にヒントを與へることも考へられやう。確かに、ラヂオ放送の地方に對する社會教育的價値は、仲介者がこれらの放送を地方社會教育の爲に、如何に生氣あらしめ、效果あらしめ得るかと云ふ、全くその方法如何に懸つてゐると云へやう。

場所　然し未知の事、外來のものが地方の生活に導き入れられるのを、たゞに人の方面からでなく、出來るならば場所の關係からも得たいものである。村落に於ける社會教育の活動は、今假りに共同の部屋とも稱すべき所にその場所を占むる時、初めて確實なるものとなつて來る。この場所は、同じ村の人たちが相寄つて、與に社會教育的な修養を積むための親しい集會所でなければならぬ。又同時に、故鄕の過去との歷史的な結び付きを、まじ〳〵と人々の胸に意識せしむる上から云つて、これ迄折々鄕土博物館に陳列されたものを全部收めてゐる場所でなければならぬ。かゝる場所、かゝる室に於て、教育は近代の技術の力を藉りて人々に施さる可きである。即ち幻燈裝置により、又出來得べくんば映畫に依り、殊に教室や宿屋のホールで時たま爲されるのとは全然違つた意味の反響を與ふる擴聲機に依つて。この共同の部屋がわざ〳〵作られるのでは餘り値打はない。自治團體の中には、自分の力で、共同に使用するホールを作つてゐるものもあるであらう。又斯樣な意味から考へて「青年舍（ユーゲントハイム）」の中に一つの部屋をこさへることも出來る。何者、「青年舍」が同時に村の自治體にも役立つものであつたら、青年の望むものとしてこれより結構なものは有り得ないであらうから。又最後にはこれらの場所を學校に求めることも出來るし、尙その他の目的に用ひられてゐる所でも、宗教生活に對する教會の存在と同樣、若しその中から文化生活の爲に存在してゐるのであると云ふ自覺さへ目覺めて來るならば、社會教育の用に供する事が出來る。

プログラム　以上は村の側より爲さるべきラヂオの社會教育的效果に對する主要々件であるが、これと並んで中央放送局側に要求す可き前提がある。それは地方に何等かの貢獻をなさんとするラヂオ講演であるならば、眞に地方の爲になさるゝものでなければならぬと云ふことである。小都市と大都市との間には、その放送するものを形式及び內容に依つて區別する必要は恐らくないであらうが、然しその他の地方に對するラヂオの放送は、都會に對するのと

は根本的に異ならなければならぬ。それ故に、一般的な、云ひ換へれば都會的なプログラムの中から、その時間のほんの一部を割いて、これを全く地方のために用ひる樣にしさへすれば、ラヂオは田舍の爲にも存在すると云ふ、即ち地方に社會教育を普及せしむると云ふ任務を果たす事が出來るであらう。

ラヂオの田舍に於ける社會教育活動は、農民生活の中心即ち勞働より出發しなければならぬ。農民は都會人よりも遙かに多くその生活を勞働の中におき、その生計を勞働に繋いでゐる。その家族も亦大部分は勞働階級に屬してゐる。この勞働を措いて、他の方面より、いくら農民の魂に迫らうとしても、それは到底望なきことである。勞働との結び付きあれば、農民は極めて實際的に有用なものを與へられる。それ故にラヂオの第一に心懸く可きことは、農民の仕事の助となり、實際的に有用なるものとなることである。ラヂオは、田畠、牧場、森林處理法の進歩、合理的肥料及その用法、土壤の文化的價値及びその耕作法、牧畜及家畜の病疫、果樹栽培及養蜂並に兩者の關係等に就て語らねばならぬ。放送さるゝ實際上の試みや成果に就て、農民が興味を持ち、具體的な事柄から實際に應用の出來るものを採用し得る樣になされねばならぬ。

なほ進んで、これまで地方では全く顧られなかつた社會衞生の問題に及ぶべきであらう。この健康問題を取扱ふ場合も、實際を主としなければならぬ。都會のそれとは全く異る田舍の料理法の問題も、保健上の重要な一章をなすものであつて、充分に取扱はる可きものである。尙これに止まらず、一般教育方面にも注意を向けなければならぬ。なぜならば兒童教育の方法は、身體的方面に於ても精神的方面に於ても、田舍に於ては殆んど未開發の狀態に在るからである。

然しこれらの範圍は更に一層擴大されねばならぬ。それは、直接に有用な事や合目的な仕事のために、農民が利己一層誇張な傾向に導かるゝ虞があるからである。農民階級が、民衆全體に對して所謂閉鎖主義に陷るに至るのも、こゝから來るのであつて、これは民衆と云ふものゝ建設上、大なる禍を爲すものである。こゝに於て農民勞働を人生と云ふ大きな關係の中へ導いて行くことが、社會教育の努力す可き大切な役目となつて來なければならぬ。これに三つの方面がある。

第一に、農民の勞働は自然生活と密接な關係を持つてゐなければならぬ。農民は自然の中に生きてゐ乍ら、しかもこれと本質的な關係に立つてゐないと云ふことは、常に繰返して云はるゝ所であるが事實である。農民は自然を知らない。植物の世界、鳥の世界が農民には未知である。これらの世界を觀察することを教へることは、確かに社會教育の任務であらう。

次に農民は、自分の仕事を全經濟過程の中の一部と感じ、又他の職業が企業全體に對して如何なる意義を持つて居るかと云ふことに、深い理解を持つて來なければならぬ。農民の民衆に對する理解はこゝから目覺めて來るのである。

最後に社會教育によつて、農民階級の發達、農民の植民地問題、自國現在の狀態のみならず、他の時代、他の國民の間に於ける農業の文化史、母國植民地の歴史、農民の相續權の樣式及歴史等に關する知識を授けて、發展經過の關係を知らしめる必要がある。又この間に各地方の民族、郷土誌が極めて自然に取扱はれ得るであらう。

斯る社會教育に依つて、農民の生活は孤立的な立場から解放されて、國民全體と活氣ある關係をなすに至る。斯くの如く農民はその職業を他の職業と比較する時初めて、對外的な生活の現れの中にも、自分の職業とその特性とに對して生々した感情を持つことが出來る。我が獨逸に於ける文化上の疾患は、各階級が他の階級の生活樣式を模倣することである。大市民は貴族に、小市民は大市民に、勞働者は小市民にこれ倣ひ、農民階級又何等の吟味なしに都會の

生活様式を模倣する危險がある。實に、農村在來の家具はそれよりもつまらない都會のものに代り、農夫の着物は流行後れの都會風に改まつてくる始末である。こゝに於て地方獨特な生活様式の必然と品位とに關する自覺を促すのは、國民性に對する重要な任務である。各階級が夫々その本來の生活を營む時初めて、民衆全體の生活は組織的に建設されるのである。從つて農民に、その生活上のこと、例へば住宅の問題、祭典の問題等に就ても助言を與へるのは、社會教育の又一つの務めと云はなければならぬ。

民衆全體と更に一層鞏固なる結合をなす時、國家は農民に對し益々生々した關係をなすに至る。常に具體的な事から出發し、とりわけ、新しい事柄や、新しく成りつゝあるものを、歷史や過去の事情の下に理解することを教ふる公民教育は、今日國家がその成員に要求する國家的任務に關して、農民に大體の觀念を與へるであらう。例へば官廳の構造に關して一層確かな知識を得ることに依つて、色々の場合の手續を簡單にすることが出來、又法律關係を一層明確に洞察することによつて、多くの訴訟問題に際して經費を節約することが出來るならば、實際の個々の場合に當つて、少なからぬ利益を得るわけである。

以上の如き基礎が出來てこそ初めて、我が科學の一般的な問題と、藝術の世界へ農民を導き入れる試みとを始めることが出來るのである。二つの場合とも農民の關心する特種のものから出發してゆかねばならぬ。ラヂオで放送す可き事には、この外になほ色々とあるであらうが、それをたゞ單純に指示する丈では充分でない。例へば藝術に就て云へば、農民階級の全く與り知らざる文化の中から生れて來たやうな創作を、直ちに聽取らせやうとしても、それは出來ないことである。最初は、例へば民謠、國民的音樂、通俗作家の作品等の如く、一面農民階級の創作でもある様なものゝみから出發することが出來るのである。同じく科學的な興味も、農民の仕事から起つて來る問題に結び付ける様にしなければならぬ。即ち生物學上の問題は環境と關聯せしめ、化學上の問題は耕作に結び付け、醫學上の問題は衞生上の事柄の延長として放送さるべきである。

斯くの如き社會教育上のプログラムを實行するには、凡ゆる事に關して時代の意志を農民に注入し、農民と時代との結合に依つて歸一的な自覺を促すやうに强調する必要がある。人を民衆に結びつけるものは第一にこの自覺である。個々別々な事柄に就て放送さるゝことが尠なければ尠い程いゝのである。然し一見實際的にして且つ有用に見ゆる講演に於ても、農民の孤立せる生活を全民衆の中に生かさんとする意志が何よりも絶えず躍如としてゐなければならぬ。

この根本的な事項から見れば、その他の凡ゆる事項は組織上從屬的な問題である。最も緊要なことは、如何にせばラヂオが田舍に於て實際規則正しく聞かれる様になるかと云ふことである。擴聲機の設置は自治體それ自身の任務である。又ラヂオ講演を一般のものが聞ける様にするのは社會教育當事者の任務であらう。

元來、ラヂオはその制度の發展に伴つて、相當複雜な分化をなして行く可きものである。即ち各放送時間が凡ての人たちに對して一様な使者である様な狀態は段々消え失せるであらう。放送に際して、娯樂と社會教育との間に一線を劃する事が、一般の社會教育的要求であると同様に、町と田舍との間にも明確な區別を設くる必要がある。田舍にはさほど多くの時間は必要でない。もと／＼農繁期たる夏は問題外であり、その他の時期に於ても、土曜の晩の少時間、或は日曜とか、通常の日の夕方だけであつて、町は、これらの僅かな時間に、田舍と町との統一、從つて民衆の凡てに貢獻する所の一つの大きな仕事が爲される事を考へて、この時間を進んで田舍の爲に割愛すべきである。

(Freie Volksbildung, Heft 4, 1928)

トーキー、ラヂオ、テレヴィジョン、將來の劇場

ヘルベルト・ライゼガング

序

本論文は、當今、藝術界に於て、最も論議の的となつてゐる題目を紹介せんとするものである。來る可きラヂオとフィルムとの提携は、單なる局面の展開を意味するに止まらず、進んで、これ迄屢々企てられて成功しなかつた藝術の大衆化の實現に向つて、意義深き一歩を踏み出さんとするものである。斯くして可成り努力されてゐるに拘らず、多かれ少なかれ、なほ相變らずある特種の人々の所有物となつてゐる演劇が、機械的技術の手を經て、凡ゆる人々の所有物、即ち眞の民衆藝術となることが出來るのである。

本論文の初めの部分は、本題を導く序說になつて居るが、これは、劇の新らしき將來を信じてゐる一舞臺監督としての見込を記したものである。そしてこゝに述べる意見は、本題と直接の關係はなく、又紙數にも限りがあるため、詳しくこれを論ずることは出來なかつた。從つてこれに關する意見は、主観的な確信、個人的な所見と見て頂きたい。事實又さうなのである。

劇場の沒落と新興藝術の芽生え　大掛りな演劇の沒落に對して、今日人々は、餘りに外的な應急手段を講ずるに汲々としてゐるが、これは歴史上必然的に、個人的貴族的精神生活の、民主的生活感情への轉向に基くものである。劇的世界感情と個人的人生觀とは、密接不離の關係にある。(兩者の最も内的な融和を見たのは、文藝復興の時代である。從つてそれ以後、文藝復興の戯曲家であるシェークスピアにまで達した者なく、況んやこれを凌駕した者は一人としてない。)現代の如き民主主義の時代は、最初より、劇の發展には障壁とならざるを得ないのである。而して劇の沒落は、必然的に、劇場、少くとも劇を必要とする文化的劇場の沒落を伴ふ。從つて若し我々が、二十世紀の藝術的可能性を論ぜんとするならば、もはや劇場に强調點を置くことは許されないのである。劇場は目下難戰苦鬪を續けて居る。劇場は現在、かのヤーヌスの頭の如く、危險なる兩面を示してゐる。即ち一方、沒落への道を辿りつゝある大市民文化の象徵であると共に、他方、新興時代の望多き萠芽である。今こゝで最初の萠芽に就て語るのは、脫線たるを免れまいと思ふが、これは恐らく、最早や二十世紀に屬するものでなく、寧ろ既に次の世紀を暗示するものであらう。然し、假に發展に先立つて考へを進めて見るならば、二十一世紀の劇場は、その中心的勢力を再び取返してゐるであらうと確かに豫想することが出來る。劇場は今後百年間、絕えず藝術上の一問題をなすであらうが、二十世紀に對する發展の可能性は、今日のところなほ極めて少ない。技術の時代である今世紀は、寧ろ機械的技藝の發展に、豐饒なる土地を供するであらう。現在我々は、將に來らんとする技術革命の前夜にあるのである。機械的技藝、これが、元來、現世紀の藝術である。

貴族的個人文化の礎石の上に、宮殿としてその穹窿を張つてゐた昔の劇場が、これと全く反對の立場にある平等的民主々義の觀念に打ち倒さるゝや、機械化、專門化と云ふ二つの最も大きな分解要素が、もうボロ〳〵になつた劇場の體を搖り動かしたのである。而して、劇場自ら、この力强い自分の破壞者に屈服してゐた間に、この分解要素は、

蝕まれた胚種細胞を叩き潰して、その崩壊の中から新らしき二つの芽、映畫とラヂオとを生ひ立たしむるに成功したのである。即ち機械化した結果はフィルムに於ては幻影を、ラヂオに於ては幻音を生ずることゝなり、專門化した結果は、太古の劇場的綜合藝術が、はつきりと、その成分、即ち目の藝術と耳の藝術とに分れていつた。

（注意、この事から舞臺監督の變化を說明することが出來る。以前はフィルム發達のために、繪の監督即ち美しい舞臺裝置に注意を集中してゐたが、今日では、言葉の監督を行ふ樣になつた。この變化は、一般に考へられてゐる樣に、內的必然性を以つて時代の様式より生れ來つたものとして、全くそれ自體の性質のみから理解さる可きものではない。存續せる母體には、變化するか、然らざれば消失する以外の何物も殘つてゐなかつたと云ふことを忘れてはならぬ。繪の監督から言葉の監督への推移は、內部に萌え出でた働きによるよりも、寧ろ外からの壓迫に歸す可きものである。）

トーキーの出現　藝術を愛する凡ての人々が、フィルムに對して、常に繰返す最も大きな批難は、言葉を缺いてゐると云ふことである。十年前迄は、布の上に映ぜられる二ディメンジョンの映像が話をする樣になるだらうなどゝは、誰しも信ずることが出來なかつたので、この缺陷は、誤つて、フィルムの藝術的缺點の中心點と考へられてゐた。

この考へは、技術の驚異的發展の結果、今日では放棄されねばならぬものである。二三ケ月前の、ハンブルク及びベルリンに於ける、話すフィルム、視覺聽覺的フィルムの實演がかち得た好評は、ゴルトヴィン氏が、フィルム技術は遠からず、その作成に驚くべき變改を見るであらうと云つた言葉を裏付けるものである。

（注意、新しい發聲フィルムは、その構造上、我々がまだ二三年前まで行つて居た、レコードで言葉を仲介しやうとする樣な苦しい試みは、もうする必要がなくなつた。レコードで言葉を傳へやうとする操作は、人の知る如く、レコードとフィルムの動きが食ひ違ひ、精密な一致、――千分の一秒の時間が問題なのである――に、どうしても達し得られないので非常に苦勞したのである。技術上のことに興味を持つ讀者の爲に、今日の發展した狀態を說明すると、先づ音の振動が、ラヂオの場合の樣に、マイクロフォンに依つて、電氣の振動に變へられる。この電氣的振動を、眞空管增幅器に通じ、更に電光裝置（瓦斯放電管）によつて光波に變へる。光波は寫眞にとられる。即ち特別な照明裝置によつて、光に對して極めて敏感なフィルムの上に寫される。斯くの如く變へられた音波は濃淡の縞として現はれる。出來上つたフィルムを實演する場合には、前と反對の過程をとつて、光波が音波に變へられる。姿と響とを平行して同時的にフィルムの上にとつてあるので、實演の際、完全に音と姿とが同時に現はれる。）

トーキーと音樂　なほこれには、この外の藝術的に極めて大切な原因が關係する。これまで行はれて來た樣な、凡ゆる趣味を嘲笑する低級な娛樂音樂は消失するであらう。この關係に於て、過日バーデン、＝バーデンで示された、各フィルムに、それに應じて特に作曲した音樂をつけやうと云ふ試みは、問題にならぬ。なぜなら、これらの試みは、音の有聲フィルムのことであつて、これは終りを意味し、初めを意味するものではない。未來の音樂は、言葉が沈默する場合のみこれを必要とするに止まるであらう。如何なる指揮者も、音樂の出初めでも途中でも、フィルムの經過を嚴密に一致せしむることは出來ないであらう。たゞ機械的な音樂のみが、フィルム現象の機械的廻轉に伴ひゆくことが出來るのである。これらの精確な裝置の中へ感覺的に加はらんとすることは、極めて非藝術的妥協である。

この技術上の改變は、フィルムの藝術的性質の向上と密接な關係を持つ。今日の一般の字幕に見る樣な、內容的にも形式的にも平凡無味な文章を寫し出す必要はもうない。生き〳〵とした言葉が丁度舞臺の上に於ける如く詩的に語られねばならぬのである。これによつて、フィルムは純粹藝術の形をとるであらう。（然し技術的方法による以上、形式

的藝術以上に出ることは出來ないであらう。）
「大獨逸ラヂオ展覧會」を訪れる機會を持つ者は、必ずや、數ケ月前までは、ユートピアと考へられてゐた問題が、既に遠からざる將來にその實現を望むことが出來るであらうと言ふ印象をもつて歸つたことであらう。一度び拓かれた道がぐんぐんとその發展に向つて進みゆくことは歴史の事實によく知られてゐることである。

トーキーに對する主なる見解　今日まだトーキーに對する意見が區々であるのは云ふまでもない。殊に無聲フィルムを愛好する人々には、この發明がまだ充分に受入れることが出來ないと言つてゐる。又トーキー作成者にあつてさへこの意見の不一致が如何に甚しいかは、アメリカとヨーロッパの工業家の間で二三週前發表された聲明によつても明らかである。ヨーロッパの人々は、トーキーを眞面目なものに見て、今述べた樣な形に於て、話す藝術と見る藝術との一致せるものと考へてゐる。アメリカ人はこれに反して、一時的に、單なるフィルム喜歌劇の一種と見ようとしてゐる。即ち彼等は活動寫眞に於て語られる言葉を、おそくとも一年の後にはなくなつて了ふ小兒病だと考へて居る。彼等は眞面目な言葉よりも輕い音樂をいゝものと信じて居る。それ故にヨーロッパで言葉のフィルムと考へてゐるとするならば、アメリカでは音或は音樂のフィルムを認めてゐる。斯くの如く、中心點、即ち藝術的原理それ自身に就てさへ、當事者は一致した見解に到達してゐない樣である。然しこれらの不一致に拘らずトーキーの問題が比較的僅かな日數の間に通俗化したことを怪しむ必要はない。フィルムの都、ホーリーウッドからの報道によると、彼所では新しい發明に對する感激は、ヨーロッパにおけるより遙かに著しく、既に今日では、最早や如何なる映畫館でもこのあぶなかしいトーキーの處女製作の上映を斷念してはならぬ程であるとのことである。我々の聞くところでは、ホーリーウッドの有名なスター連はすつかり絶望して了つて、彼等に話術の手ほどきをして與れることの出來る言葉の先生を求めてゐる

と云ふことである。然し今後如何に發展して行くにしても、兎に角我々は、無聲フィルムの信者たちの前に、「フィルムはこの發明を必要としたのだ、フィルムにはこの刷新がなくてはならなかつたのだ」と云ふことを提示することが出來る。なぜならフィルムの危期は、劇の危期と同樣であるからである。たゞそれが外部にそんなにはつきり現はれないのと、經濟的にそんなに沒落してゐないだけのことである。然しそれだけに一層物凄く內部へ狂ひ進むのだ。他の方面に新しい創造的可能性が殘されてあるものを、たゞ徒らにフィルム觀念にのみ捉はれて、これが浪費は甚しいものであつた。藝術的停止は當然の結果である。フィルム的現象は、嫌になる程繰返しくゝ益々無味な版を重ねて、球燦に確實な當のある材料の周りを廻つてゐた。

私は無聲フィルムが重要な發展段階を辿りつゝあるなどゝは今日最早や信じない。無聲フィルムは出來上つて了つてゐる。この時、その老衰凋落の危險は、幸にしてトーキーの發明によつて免れたのである。

トーキーと劇場及映畫館　こゝに當然問題が起つて來る。この變化が今日の形式をとる劇場に最後の止めを刺す樣なことはないであらうか。我々の境遇を考へて見ると、我々は映畫館に生れた表現法、話術を受入れることの出來る地位に置かれてゐる。然し地方都市は、經濟的障碍の結果として、同じ樣なものを作り出すには困難な狀態にある。即ちこの問題に對する解答は殘念乍ら次の樣でなければならぬ。劇場は今の處まだずつと變化して行くことを見込まねばならぬであらうと。

〔註〕誤解を招くことのないやうに特に斷つておき度いと思ふのは、こゝではたゞ精神文化的に、技術の確實にふみ進む可き道を示さうとするのみであると云ふことである。夫々の個人的諾否は、この意味に於て、こゝに云々する問題ではない。トーキーの問題は、最近數ケ月の間に著しく盛んになつた。遠からざる內に、毎週、四—

五〇〇米のトーキーを副プログラムとして上映目錄中に採り入れる樣になるとのことである。又世界的映畫製作者ゴルドウィン氏は、最近、トーキー作製の計畫を次の樣に述べて居る。先づ、トーキーは比較的短い一幕物の樣な見掛けのものでなければならぬ。然し一幕物から普通の長さの映畫劇に至るの道は最早やそんなに遠いものではなからうと。

トーキーと國際的關係　斯かる發展の經濟的な考察を細部に亘つて述べることは、本論文の任務とするところではない。たゞ最も困難であり且つ今日に至るまでなほ完全には解決されてゐない發聲映畫の國際的關係の問題を考へて見よう。目の藝術は耳の藝術に比して言葉の上の束縛なく、從つて國際的であり得る長所を持つてゐる。而して映畫製作の世界市場に於て第二位を占めて苦鬪を續けてゐる獨逸映畫製作工業が（今日アメリカは八五―九〇%を市場に據り、獨逸は第二位に位し、フランスは四%を以つて第三位を占めてゐる）、今後も、自己の存在を主張してゆくことの出來る爲めには、この國際的關係に重きをおかなければならない。然し各フィルムが夫々の自國語を以つて語られるならば、そこに非常な危險があるのであつて、他國民に對しては多くの場合何の役にも立たぬものとなつて了まう。

トーキーとラヂオとの結合――テレヴィジョンの進展　これまで述べて來たことは、專ら近き將來の計畫から出發したのである。更に進んで、ラヂオ展が將來の實現を我々に約束してゐる問題の一つに目を注いで見たい。現代の二つの特種な技術、フィルムとラヂオとが、大きな一つの原細胞たる劇場の芽生えであることは、概にはつきり述べた通りである。若しこれらの二技術が、その共通の出發點を考へ、夫々完全な發展を遂げて、新たに相結合し、すばらしい一つの世界的な力となる時には、劇場は恐るべき危險に脅かされるであらう。今日の如き兩者の形式は、こ

の究極の狀態にまでの過渡期であると見做すべきである。視覺的映畫がその勢力範圍に言葉を加へたやうに、他の側からたゞ耳にのみ仕へてゐるラヂオが、姿を自分のものとする。（望遠鏡がラヂオの成分となるのであらう）。テレヴィジョンと云ふことは今日では既に誰も知つて居ることである。なぜならば、兩者はこの世に於ける空間概念の征服を意味するものであるからである。即ち一は目に對して、他は耳に對して。かうした場合、自分々々の家にある動かぬ寫眞が活動寫眞の樣に動く樣になる迄にはたゞ時の問題あるのみであることは、識者には明らかなことであらう。これは勿論、現在の形に於ける活動寫眞館の終末を意味するものである。さうなれば、今日ラヂオが各放送局より家々へ傳へられると同じ方法で、二、三の中央局から發聲映畫が送られるのである。

これで我々は最後の地に達する。我々は家庭的にクラブの椅子に腰をかけてゐて、ボタンを一つ押しさへしたら、又音の樣に見ることと聞くことが一つになつて、劇を樂しむことが出來るのである。これは技術の最大の勝利である。

然しこの機械的な姿を詳細に眺めて見ると、そこに最後の、非藝術的な殘存物を認めるであらう。映寫幕の上に現はれるフィルム的現象の二、ディメンジョン性は、音樂や言葉の三、ディメンジョン性と一致しない。こゝに隙が生ずるのであつて、これを、エル・アルンハイムが極めて適切に指摘してゐる。（彼はこれを面白い比較を以つて示してゐる。「音を加へることが普通のフィルムを飾るものであることは確かだ。それは然し繪はがきの上の自然のまゝに描かれた家鴨に、バネ仕掛けの尻尾を付けた樣な飾りだ。家鴨は第三のディメンジョンをコケットに打振つて、これによつて大衆の滿足を、そして小數の人々の驚きを大いに増すのであらう」と。）

同時にアルンハイムは、この藝術的缺陷の排除は、實體鏡的に實際の空間を見せるにあると見て居る。見物人は實體らしく回轉しゆくフィルムの始まる前に、それに應じた眼鏡をかける。眼鏡は人物を麻布の平面から引出して見せて

くれる、と云ふのである。然し――今や我々の觀察は再び始めに歸るのであるが――かく考へて來る時に、これは實際に新しい藝術形式を以つて論ずべきであらうか、それともたゞ殘りたる機械的な形をとつて、我々の愛する昔の「のぞき」の原理が歸つて來たのであらうか。

將來の劇場　今述べた最後の豫想的な見解を以つて、今一度、我々の一番親しみある、そして一番不幸な劇場のことを考へて見るならば、慰めとしては、たゞ望み、――勿論遠いことではあるが――より幸なる未來に對する望みがあるのみてある。新しいドラマの發際と共に死んだ劇場も、以前よりもつと華やかに、甦生を祝ふであらう。なぜならば、劇場には、技術が劇場から奪ふことの出來ない唯一のもの、しかも今日人々は大抵驚いて、貶して了ふのが常であるが、生き殘つた最後のものとして、社會的要素、即ち舞臺の上の人間から見物席の人間への、人間らしい暖い感動があるからである。技術はこれ迄述べて來た樣な道を、しつかりと辿つてゆくであらう。然し――自分の主觀的な云分を許して頂き度い――技術は勝ち誇つて突き進む內に、自分で自分の墓穴を掘る結果となるであらう。斯くして技術が、藝術の王である劇の再現を、完全なものにすればするほど、譏誘の的になつてゐる舞臺への憧れは、益々深くなつて行くであらう。然しこの憧れは、精神的な問題に於て、今日の文明や技巧とは最早や何等の關係もない他の文化を要求するであらう。

（私は、はつきり繰返して云ふ。精神的な問題に於てと云ふ。實際生活に於ける技術の必然を問題にするのは云ふ迄もないことである。然し私は、技術はいつか、自分と遠い關係にある精神問題をも支配してゐる狀態を思ひ切らねばならぬ樣になるであらうと信ずる）

「藝術」と云ふ概念――我々にとつては、その最初の宗敎的な意味は既に失はれて居り、その「神秘」は今日では、極く僅かな創作家にのみ淋しく知られてゐるのみであり、しかも文化の高かりし時代には畏敬の念をもつて國民から崇信されてゐたこの「藝術」と云ふ概念を、我々は新らしくとり戾す必要がある。然しさうなつた曉には殘念なことではあるが――我々は最早や今日の舞臺俳優ではないであらう。

（Freie Volksbildung, Heft 1, 1929）

新らしき道

ラインハルト・リーベ

ラヂオの教育上に及ぼせる反響 ラヂオが現代の、重要なる教育機關の一つに加はつて來なければならぬことは、今日では最早や否み難いことである。ラヂオの極めて力强い教育的な力と、驚く可き文化的可能性とに注意を促す聲は、到る所に增して來た。意見を異にする者でも、この新しき教育方法に反對せんとする戰には、望のないことを認めてゐる。事實は目前にあり、しかも益々完全に向ひつゝある。ラヂオは容易に廉價でこさへられる。田舍や小都市に於ては、既にラヂオが、民衆大學を驅逐してゐる所がある。なぜなら民衆大學で可能なのと同じことを、無限により多く、又場合によつては、遙かにより良きものを放送して居るし、少なくとも、して居る樣に思はれるからである。且つ、同時に寒い「教授所」への嫌な夜の通學を免れることが出來るからである。

最近、本誌（一九二八年第四卷）に、ツェー・ゲプハルトの「ラヂオと地方の社會教育」と云ふ論文が載せられたが、自分がこれを手にした時には、既にこの論文を書いて了つてゐた。同意見の所も間々あり、他の觀察點からこゝに述べることをよく裏書して居る。

大都市に於ては、交通が前者の場合より便利であり、又プロレタリアートには、大抵まだラヂオがなくてもすむので、この危險な競爭は殆んど氣付かれてゐない。然し大都市に於ても、至る所に民衆聽取室が設けられ、大都市の民衆大學に對しても、この施設は重要なものとなるであらう。

ラヂオの印刷物への影響 我々は、このラヂオの影響を見脫すことは出來ない。既に、出版業、新聞市場に退步が報ぜられてゐるが、これは單に、經濟的逼迫に基くものゝみではない。我々は讀むことに疲れを感じて來た。目の紙的文化、即ちこれ迄の數千年間の、凡ゆる讀と書との時代は、轉換せんとしつゝあり、なほ一部は耳の文化に所を讓るであらうことは、豫想せざるを得ない。主として語られる言葉を使用する民衆大學に對しても、このことは非常な結果を持つものである。我々の欲すると否とを問はず、最早や我々は無關心にラヂオの側を通り過ぎて行くことは出來ない。我々は、我々と共に力强く將來へふみ進んで行かうとしてゐる、精神上の血族であり、又敵でもある、このラヂオと共に、一つの生活樣式、出來得べくんば有效な共同にまで到達せんことに力めなければならぬ。

而してこの若い競爭者を先づよく眺めて見ると、この競爭者がやがて我々に最もよき未來の友と變ずるであらう。この施設の國營とその公的監督、この施設によつて、國民の最良の精神を、人間の直接の力を以つて全獨逸の言語界に語ることの出來る可能性、現代の文化的指導機關に對するラヂオの永續的な關係、又益々盛んになりつゝある文化を深めやうとする努力、これ等凡ては、この實際「お伽話」の樣なものを、單に前代未聞なことを可能ならしむる器具とするだけでなく、正にこの力あるが故に、又益々我々と盟を一つにするものとなすのである。從つて——どんなに問題があるにしても——戰斧を埋めて、寧ろ、ラヂオの利用、我々の目的に對するラヂオの技術的能力の有用化、と言ふ新しい大きな問題を如何にして解いたらよいかと云ふことに就いて、考慮すべき時であらう。

材料仲介と教育 然しこのことは「我々の神聖なもの」に對する反逆を意味するものではないであらうか。ラヂオはいつでも「材料」だけを供給する。「材料だけを」。然し、事實我々は誤なく進んで來てゐる。それならば、ど

の程度までゞあるか。我々は結局「材料」を棄てゝ、たゞ單にその事柄のためにのみすればよいのであるか。我々は最早やこれ以上學ばうとせず、これ以上知らうとせず、たゞ單に語らうとのみするのであるか。そうではない。獨逸社會教育活動のこの十年間が著しい教育的發展を齎らしたとしたら、その發展は、眞の教育は「材料によつて人間になる」ことなり、と言ふ意味のそれである。——眞理の眞相を一層新に一層良く理解し、且つこれを思想的に統御して、一層人間的に人生の深みに根を下ろすと云ふ意味のそれである。而してこれは兩者、即ち聽くことゝ話すこと、靜かにしてゐることゝ戰ふこと、受入れることゝ考へつゝ進むこと、この兩者を意味し、又時には、その各々を意味する。それ故に、最良の社會教育家は、到る所に於てこの兩者をよく結びつけやうとする。即ち標準的な材料の提供と認識のための共同戰鬪とを。確固たる思想を持つた者、よく靜め考を練つた者のよい講演は、如何なる場合も、我々の事業のなくてならぬ補充である。而してこの講演は地方の教師以外の人によつても、即ち優れた專門家（教育家でさへあれば）によつてもなされ得ないことはなく、寧ろその方がよい講演を聞かれるのである。而してこの專門家が、適當な時に、放送局の委囑を受けさへしたら、直ちにラヂオで我々に話しかけることが出來るのである。

これは、決して民衆の趣味に迎合せんとするのではなく、二重の效果、即ち民衆自身をその窮境より救ひ出すと同時に、ラヂオ文化の改革及成果を來さんとするのである。若し將來、獨逸の各方面の一流の專門家が、色々な題目の下に、愼重に考へたプラーンに從ひ、材料に應じ、實際に即してラヂオ講演をなすならば、その結果は著しき勞力の節約と著しき質の向上とでなければならぬ。

民衆大學とラヂオの利用　それ故に民衆大學國家聯盟 (Reichsverband der Volkshochschule) は、速に——なぜなら、大切な時期を逸しない爲に非常に急ぐ必要があるので——大きな放送局のプログラム編成に關係を持つ樣にし、日々のラヂオ放送時間中に、社會教育事業の爲の一定の時間を得る樣にして貰ひたい。地方社會教育は、これと同時に讀書室及他の勞作室に聽取室を設け、且つ時間割を少くとも一部はラヂオの教育時間に合せてつくり、これに適當な準備及復習を加へる樣にしたい。

何れにしても、小都市及び田舍に對しては多くの望みをかけることが出來る。社會教育事業に對して、新に起つて來る打ち勝ち難い大きな障碍も、斯くて勝利の望がないことはないと思ふ。大都市に對しては稍々事情が異なり、寧ろフィルムにもつと接近して行くことが恐らく將來の更に重要な任務ではないかと思ふ。

(Freie Volksbildung, Heft 1, 1929)

リーベ氏の「新らしき道」を讀みて

ロベルト・フオン・エルトベルク

リーベ氏は先づ第一に、ラヂオを大切な教育機關の一つと見てゐるので、凡ての問題はそこから導かれて居る。二、三の組織上のこと、技術上のことは、未解決のまゝであるが、兎に角、「よき意見は凡てを完成する」。

民衆大學教育と材料仲介　リーベが「教育する」と云ふ言葉を、知識の仲介と云ふ意味に用ひてゐるのは極めて明らかなことである。從つて學校も民衆大學も同じ任務を帶びてゐるわけである。少なくとも彼は、材料を仲介することによつて、自動的に各人の内に教育過程の如きものが行はれると云ふ意見である。これが實際に適切であるかどうかと云ふ決定は、哲學的學識のある教育家に一任されねばならぬ。然しリーベに對して先づ發せらるべき質問は、民衆大學が、學校からその任務の一部を引受けると云ふことが何を意味するものであらふかと云ふことである。なぜなら、リーベに從ふと「眞の教育は材料によつて人間になること」を意味すると云ふ結果になるからである。この言葉は太い文字で書かれてある。それにも拘らず、私はこれを正しいとは思へなかつた。又次の説明にも私は行きつまつた。

「眞理の眞相を一層新に一層よく理解し、且つこれを思想的に統御して、一層人間的に人生の深みに根を下ろすと云ふ意味のそれである。而しこれは兩者、卽ち聽くことゝ話すこと、靜かにしてゐること　戰ふこと、受入れることゝ考へつゝ進むこと、この兩者を意味し、又時にはその各々を意味する。」

私は斯ふ云ふ風に區分して民衆大學の事業を考へることは出來ない。材料仲介と精神的透徹——然らず、材料は精神的透徹による以外に傳達の道はないのである。このことは、民衆大學に就てのみの問題ではない。勿論民衆大學に於ては、聽講生が材料を受入れる場合、又受入れることに依る精神的透徹に當つてなす所の精神活動が、中心をなすものであるが故に、このことは民衆大學にとつて殊に大切ではあるが、私はこれ以外には理解出來ない。斯くして初めて、「到る所に於て兩者をよく結びつけようとする最良なる社會教育家」の努力が意味を持つて來るのである。

こゝに於てもそれ故に、若しリーベが民衆大學とラヂオとの關係を示し、ラヂオに對する民衆大學の立場を明確にしやうとするならば、どうしても民衆大學の特種な任務、その特性から出發せざるを得ないのであらうと思はれる。

私はラヂオによる材料仲介のあることをリーベと爭ひはしない。又精神的な透徹なくして知ることの出來る材料のあることも爭はない。然しこれは民衆大學には關係のないことである。若し民衆大學がこの種の材料仲介の任務を持つてゐるならば、(この意見をリーベに抑しつけるのでは決してない) 民衆大學は、ラヂオのお蔭で廢校されてもいゝのである。先づ到る所に民衆聽取堂を持つ樣になる時——それは間もないことと思ふが——大都市の民衆大學に對する施設は嫩つて來るとリーベが豫告しても、それは疑はしいことでないであらうか。彼はかくてラヂオは、民衆大學の任務を「餘す所なく」解き得ると云はうとするのであるか。

現行ラヂオ放送の利用困難　然し聽取堂のみを以つて事終れりとなすべきではあるまい。リーベは現在の放送局が、民衆大學の爲にその一部の時間を割く樣に、或は一つの特種な放送局がこの目的のために設立される樣にと云ふことから出發して居る。然しラヂオが時間を定めてすることの出來ることを考へて見よ。民衆大學の聽取者は夜の

時間丈けしか利用出來ない。從つてこゝで問題になるのは夜だけである。しかもラヂオは、夜の時間の殆んど大部分を娛樂と眞面目な藝術放送との爲に必要とする。このために民衆大學を顧みてゐるわけにはいかない。加ふるに聽講生は、民衆大學自身の爲の時間をも聞いたことの精神的透徹にまで用意しておかなければならない。それ故にラヂオがこの任務の爲に用ひ得る時間と云ふのは、伯林放送局（Der Berliner Sender）が、ハンス・ブレドー・シューレ（Hans Bredow-Schule）の講義を放送する時間の樣な、一週ほんの僅かなものに限られるであらう。これでは民衆大學に對する材料仲介の必要を覆ふに不充分であらう。これでは他の如何なることも始められない。凡ての民衆大學が材料仲介の爲に、定期のラヂオに一致する樣にすると云ふことはリーベ自身しやうとは思ふまい。特別な放送局をつくつても、この困難は減じはしない。寧ろ困難は加はるであらう。なぜなら、恐らく全獨逸に對する放送を引受けねばならぬであらうから。

この僅かな言葉を以つて、リーベに對し、又彼の不備を補つて、民衆大學の事情とラヂオとに關して述べ盡すことの出來ないのは云ふ迄もない。ラヂオは若し我々がそんなに早くこれの片を付けることが出來るなら、決して素晴らしい、又物凄い力のものではあるまい。「意見を異にする者でも、この新しい教育方法に反對せんとする戰ひには望のないことを認めてゐる」とリーベは云つてゐる。たゞ單にある一つの教育手段と云ふ丈の意味であるなら、敢てこれに反對する必要はないかも知れない。然しリーベは一も二もなくこれを受入れて居るのである。けれども私はそんなに容易くこれを民衆大學に採り入れてはならぬと思ふ。我々は然し、若しラヂオの社會教育に對する有用性を判斷し樣とするならば、一體ラヂオは色々な積局的に評價さる可き可能性——それを私は認めない譯ではない（然らざれば私は、伯林にある「フンク・シュツンデ」放送局の「文化顧問」（Kulturbeirat der Funk-Stunde Berlin）の一員とはなつてゐない。）——の外になほ、恐らく非常に否定的に評價さる可き影響を——それを我々は、はつきりと見ない譯にゆかない——持つてゐはしないかどうかと云ふことを考へて見なければならぬ。一部は技術的なことに屬すと思ふが、こゝに多くの問題が橫はつて居り、私もいつか、ラヂオと民衆大學と云ふ題で論じて見たいと思つて居る。

(Freie Volksbildung, Heft 1, 1929)

ラヂオに依る社會教育の可能性

ルドルフ・ショットレンデル

教育範域の擴張　教育的なラヂオと云へば、直ぐ教育的な讀物が思ひ浮べられるであらう。大衆的に、即ち教ゆる者と教へられる者と、個人的に相識ることなく、働を及ぼす凡ゆる方法の內で、この二つは最も廣い範圍に亙るものである。自然科學者ハンス・ライヒェンバッハ教授は、最近あるラヂオ講演の際に、社會教育上、ラヂオの發明は、印刷の發明と同じ意味を持つものであると注意して居られるが、氏が斯く云はれたのは、印刷が、人間の知識及藝術活動の結果を、讀書によつて廣い範圍に傳達しゆくと同じ樣に、ラヂオも同じ結果を、聽取によつて、もつと廣い範圍に傳達するものであると云ふ意味であらうと自分は考へる。事實、印刷の發明前には、一つの教育的なテキストが、例へば詩に就て云ふならば、同時に十人位の者にしか及ぶことが出來なかつたのが、印刷の發明されてからは、平均凡そ千人の人に達する樣になり、更にラヂオの發明後は、平均十萬人に及ぶに至つた。即ち發明のなされる度に、傳播力が、百倍されて行つたと云ふことが出來る。而してこの範域の擴大されたことは、當時印刷によつて、市民階級に多く利益を及ぼしたと同じ程度に、今日は、ラヂオによつて、勞働階級、農民階級に大なる恩惠を與へてゐる。

聽取と讀書との相互關係　然しこゝに問題となるのは、一體聽取による文化財の傳達は、讀書による文化財の傳達と、如何なる關係に立つかと云ふことである。マックス・ヴィーゼルは、ある講演で（「實行」"Tat"の一九二七年

一月號に再錄されてゐる）、ラヂオに、讀書の一準備方法たるの役目をあてがひ、若し聽取者が、ラヂオで放送するものによつて、自分の氣に入つた著書を發見し、進んでその本を買ひ、或は借りて、その凡てのことを、「自分の失ふことの出來ない、そして他の人々に廣く感化を及ぼす所有」たらしめることが出來るならば、最も望ましいことである。なる程ラヂオは、いつでも「その日〳〵の價値」のもの丈を仲介してゐるが、その間に、「永久的價値」のもの、即ちその價値の支持者たる書籍にまでの橋渡しをするものをも、傳へることが出來るのである、と云つてゐる。——讀書に對する準備と云ふことが、ラヂオ講演の可能な一機能であることは確かであるが、同樣他面に於て、讀書をラヂオ講演の準備であるとも考へることが出來る。即ち、特にラヂオに適した放送がなされる場合に。偉大な朗讀家がゴットフリート・ケッレルの一短篇を、マイクロフォンの前で朗讀する時、若し聽衆がその前に一度この短篇を讀んでおき、その爲に朗讀の終つた時二倍の理解と感銘とを受けることが出來るならば、それは如何に意義あることであらう。

語られる言葉と記される言葉　我々はこのことから、書籍とラヂオとの獨特な機能は、公に語られる言葉と、公に記される言葉との性質から、考へることが出來る樣な氣がする。

然らば本來、語られる言葉の働と、記される言葉の働とは、何に依つて區別されるか。記され或は印刷された言葉は、語られる言葉の音と名づける所のものを、直接には持つてゐない。我々は先づこの音を補つて讀まなければならない。その代り書かれた言葉は、云つたことを思ひのまゝに確保する能力を持つてゐる。これに反し、語られる言葉は、書かれた言葉より逃げ易いには逃げ易いが、その代り聲音によつて、語ることを一層生々と如實に示す力を持つてゐる。斯くの如く兩者の各々に、教育的效果の長所と缺點とがあるのである。この長所を助成し、この缺點を補ふ

必要がある。即ち語られる言葉ラヂオの持つ效果の缺點は、記載によつて、記され或は印刷される言葉の缺點は、心の内で音を出すことによつて補はなければならない。

扨てラヂオの言葉の特性を充分に理解しようとするならば、これを單に書物の言葉と比較するだけでなく、他の一般の言葉即ち一般の挨拶とか、民衆講話とも比較しなければならぬ。なぜなら、書物とラヂオは、見えざる大衆に呼びかけると云ふ一事に於て共通であるが、民衆講話其の他の演說は、目に見ゆる聽衆を對象としてゐるからである。聽衆は、講演者の表情、手振により、講演者は、自分の語る言葉の效果を目の當り經驗することによつて、力づけられ、助けられる。かゝる民衆講話は、語る者にとつて非常に有力である。講話が最良のものである時、そこに喚び起されるものは、たゞ語る者の人格と、語る者の確信に對する信頼のみである。かうした信頼は、特に何かよいことが、その講演の鼓舞的な基礎になつてゐる時、極めて敎育的なものである。

ラヂオ講演の特性　目と目と對ひ合つてゐる時起る、語る者の斯くの如き人格的な力そのものが、ラヂオ講演には望み得ない。取扱つてゐる問題に突き進む精神力がないのである。然し書物とは異なり、語る者の聲がある爲に、面と對つて話をする場合の效果の或るものは、保有されてゐて、利用出來るのである。其故に――理想的な場合を想像して――書物の著者が、純粹に事柄の理解を、そして民衆講演者が、純粹に人格的同感を來すのであるならば、ラヂオ講演者は、人格的同感の覺醒に依る、事柄の理解を、來すものである。其故にラヂオに對する本質的な條件は、精神的修得の一定の樣式であつて、一定の範域ではない。確かに、或る二、三の範域に屬するものは、視覺の働をどうしても必要とする所がある爲に、ラヂオによることは不可能である。然しラヂオに可能な範域は無數に殘されてゐる。これ等の範圍内で、全然ラヂオに不適當であると云ふものを知らない。哲學でさへさうである。古代に於ては、著者が、嚴格な方法論の手引に關する多くの論理上の問題を探究すると云ふよりも、寧ろ人生に於けるある境遇、例へば死の恐怖の如きものに解決を與へる要素として、哲學的思索力を示したある種の哲學的文獻があつた。――アリストーテレスやシセロも、これ等の文獻を用ひることを蔑みはしなかつた。――これ等の所謂、哲學にまで「驅り立てゝゆく」書物に於ては、自然の結果として、いゝ意味にも惡い意味にも、著者の人格が、本來の研究書よりも遙かに强く、表示されてゐる。哲學的研究ならずとも、哲學的理解は、この方法で充分養はれる。而して斯樣な表現に對しては、ラヂオ講演者は、最も適當した仲介者であらう。かるが故に、語る者との同感による方法、或はその事柄に對して愛を共にすると云ひたいのであるが、かゝる方法によつて公衆に傳へられる凡てのことは、ラヂオの題目として適當なのである。而してこの方法によつてその事柄に親しみ得る者は、ラヂオの聽取者として適當なのである。語る者が餘り强制的に理解を求めようとしない凡ての場合、從つて、第一に文藝作品の發表とか、訓話の樣な場合、更に又尊敬すべき人物、一定の職業のうつくしさ、社會階級の本質、外國の民族及風習の說明をなす場合、これら凡ての場合に於ては、語る者との殆んど無意識なる同感が、聽取者にとつて、力强い原動力となるであらう。たゞ婦人のみに限らず、非常に多くの人たちが、自分一人の力では、又書物の力を藉りても能くし得ない理解の道を、目に見えざる話者との、事物に對する相愛の氣持から、自分で思ひ設けなかつた程容易に、ふみ進んでゆくことが出來ることは、勿論である。同時に危險もこゝにある。彼等がこの同感に止まり、時折の事物に注意を向くることたく、又見えざる話者いたゞ半分の臨席によつて與へられる、本當の恩惠を、純粹な敎育の意味に利用することが出來ないといふ危險がある。これはたゞに聽取者に對する危險ばかりでなく、講演者に對する危險でもある。講演者はラヂオ傷心者になり易い危險がある。然し若し講演者が、自分の惹き起し得る同感や心服を、民衆講演者の樣に、信頼の形式とし

て、自分の人格にかけることをせず、これを理解させようといふ事物に近づける樣にしたならば、危險はない。なぜならば、それでなほ聲や講演によつてまどはされる者は、元來亡ぶべきものであるから。

ラヂオ講演の優越點　然らばラヂオ講演と、在來の教育講演との關係はどうであらうか。この點に就ては自分は、ラヂオ講演の側に多くの利益を見出すことが出來る。第一、ラヂオ講演によつて、講演者がよく話すことが出來るやうになる。更にラヂオ講演に於ては、相向ひ合つてゐることや、贊成、不贊成の野次の起ることのあることによつて引起され勝な、冷靜を失ふ危險を遮斷されてゐる。勿論ラヂオ講演者からは直接の效果が奪はれてゐる。然し最も優れたラヂオ講演者は、殊に連續講演の場合や時折聽取者からの通信に接する場合などには、聽衆が目には見えないが、聽衆に接してゐるやうな一種の感じが起ると云つてゐる。なほ、一言ふれなければならぬ問題は、聽取者が、一堂に相會してゐる時の樣な共同觀念を、相互に持つことの出來ないことの結果如何と云ふことである。この問題に對しては――デッソアールは一九二六年に、（雜誌 "Funk" 一九二六年二十四號所載）何等か不可變なるものとして「個別」と云ふことに就て述べてゐるが、――個別と云ふことは、決してラヂオ自身の性質から必然的に生じて來るものではない。我々は、家の中に、又家と家との間に、聽取組合を作ることが出來る。擴聲機が完全になつて以來、殊にさうである。事實學校ラヂオは、全學級に對する擴聲機の設置に基礎をおくものであり、露西亞に於ては、一村で聽取組合をつくることが屢々ある。

在來の形式の社會教育講演は、大抵のよい大學講義がさうである樣に、敎ゆる者が一人々々の聽講生を識つてゐる、眞の個人講演である場合にのみ獨特な長所を持つのである。然しさうでない場合には、社會教育講演は、ラヂオ講演に一歩を讓るであらう。なぜならば、後者は、教育する者と教育される者との間に、視線や思想の交換は望み得ないが、公衆的な教育講演に可能なる凡てのことを最も純粹に發揮することが出來るからである。勿論、社會教育施設に於ける勞作共同は、全く異なつてゐる。勞作共同は、その性質上、個人的會合と云ふ、他と換へ難きものを持つてゐる。なぜならば、凡ての公衆的教育に於ては、既にある持ち出されたものが理解されて、後から實行されゝば、それで上々であるが、勞作共同に於ては、お互に持ちよつて、ある一つの考へをつくり上げてゆくのであるからである。

講演以外のラヂオ教育――對話と聽劇　私はこれ迄ラヂオ講演に就てのみ話して來た。然しこれが教育的ラヂオの唯一の形式ではない。獨逸のラヂオに於ては、ラヂオに獨特な二人或は數人の對話、及びラヂオ劇が出來て來た。

二人或は數人の對話には、色々な人の異つた意見が、餘りに熱情的に、或は餘りに精練されて述べられるか、然らざれば、叙述に見透しがつかない爲めに、混亂を來す恐れがある。聞いてゐる者は、一人でなく色々な人に同感し、自分の判斷をつくることが出來ない誘惑があると云はれてゐる。それ故に、語る者の意圖のあるなしに拘はらず、同感が、上に要求したが如く、その事柄に向つて導かれてゆくことは出來ないであらう。かゝる形式のものより、或る一人の人だけが自分の意見を述べて、他の人は賢明な、親しみのある質問をし、時には反對意見を述べて、その人の考へを引き出してゆく樣な對話の方が、遙かに有效である。なぜならこの場合には質問者が、云はば聽取者の代表であつて、その事柄に對する質問者の愛は、聽取者を同じ愛に燃やすであらうから。私はこの種の對話を、アルフレッド・ケルと建築技師オスカール・カウフマンとの建築職業に關する對話に思ひ起すのである。

「聽劇（ヘールシユピール）」といふのは、うまくつけたその名前が示してゐる樣に、ラヂオの劇であるが、これが教育的な價値に就ては、聽劇は或る種の名作に、新らしい、より完全な姿を與へるものであるといふことが出來る。それは叙事詩と劇

との中間にある様な作、即ちクライストの「ミヒァエル・コールハース」の如き半劇的物語（プレスラウに於て聽劇として放送さる）か、或はホーフマンスタールのもの丶如き半叙事詩的劇や、其他の所謂「書籍劇（ブーフドラマ）」である。叙事劇的――こんな云い方をしてい丶としたら――ラヂオの言葉が、將來の獨立した創作として、ラヂオにとり入れられた純叙事的及抒情的作品と相並ぶに至るであらう。放送藝術家として、いつかはラヂオ界のチャップリンが現はれるであらうと云ふことは、考へられないことではない。映畫に於ても、純粹な活動俳優が、純粹な映畫劇の世界を享受し、これをつくつてゆく迄には、長い時を要したのである。

最後に述べた一般に理解される藝術放送は別として、凡てのラヂオ教育事業に障碍となるのは、どんな放送の場合でも、その事柄に對して共に親しみを持つ人は、全聽取者のたゞ一部であると云ふことである。其れ故に、獨逸に於けるラヂオのプログラム指導者は、「生活圈の輪舞」と呼んでゐるシステムを立て丶ゐる。今、成人教育に最も大切な放送の二、三を擧げるならば、「勞働者の時間」、「婦人の時間」、「兩親の時間」の別あり、その爲に、熱心な聽衆のある者は、しばらくの間、怠屈を感じなければならないが、その代り、目に見えざる講演の導きによつて、思索の種が、よく用意された特に感受力ある土地に播かれることになるのである。それ故に、この方法の考へには、非常に利益があり、斯樣な放送の性質上同業組合的な連絡でなく、生活に必須な利害關係の下に結ばる丶よきものが保たれてゆく。この組織は、獨逸のラヂオ指導者の中には、ラヂオの言葉による社會教育に對して、固い意志と獨創力とを持つた人がゐることの證明になると思ふ。

ラヂオによる音樂的民衆教育の可能に就て說明することは、私の任務とする所ではないと考へた。これには又特別な論述が必要である。

「自由民衆教育」一九二九年度第六巻
(Freie Volksbildung, Heft 1, 1929)

ラヂオ民衆大學

ドクトル　ハンス・ハルトマン

ラヂオ民衆大學の意義　ラヂオ民衆大學と云ふ如きどうしても起つて來なければならない新らしい現象は、我々に二つの課題をおく。即ち一つは、我々の精神的狀態を、この場合であれば我が社會教育の狀態を、細心に吟味することであり、一つは、この新らしきものを、全國民に對して實を結ぶことの出來る軌道に導いて行くことである。ラヂオ民衆大學とは、村や小都市に於ける精神的指導者、それ故に大抵は敎師を中心として、その地方の人々が、學校或は公會堂の擴聲機の周圍に集まるものを云ふのである。こゝで、聽取すべき講演とか音樂とかに豫備智識を與へる。そして放送を一緒に聞き、且つ、直ぐその後、或は他の日に、聽取した問題に就て、共同硏究の形式で、もう一度徹底的に討究するのである。

廣い、そしてこれまでまだ敎育の充分に及んでゐない民衆階級に對する、實際的なこの訓育の形式は、現に段々勃興しつゝある。東部獨逸及び西部獨逸の所々に於て、官廳はこの運動の促進に力めてゐる。そして敎師も亦、これによつて、更に一層の喜びを以つて自分自身の高上に力め、一層切實に時代の精神現象に觸るばかりでなく、同時に、同樣重要な他の一つの目的に達することが出來る。即ち地方の人たちと、一層近接し一層根本的に接觸する機會を、一層より多く喜び掴むことが出來るであらうことは疑ない。

これ迄になされた試みの內で、一番效果のあつたのは、恐らくライン＝マイン社會敎育聯盟長カール・ゲブハルト博士（Leiter des rhein-mainischen Verbandes Volksbildung, Dr. Carl Gebhardt）によつてなされたものであらう。氏は、本誌に載せられた立派な論文「ラヂオと地方社會敎育」に、氏の硏究を發表された。ラヂオ民衆大學など云ふものがあるのかと、びつくりされた人は、ゲブハルト氏の論文を熟讀して頂き度い。そこには、村落から前提を立てゝ行かねばならぬラヂオの社會敎育的效果に就て、非常に明快に語られて居る。又ゲブハルト博士の出版された、講演の目錄及回章をも參照することをすゝめる。これを見ると、例へば、社會敎育家が、その土地〱で、ラヂオ講演に聯關して開かれる討論會を、多少講演者の代表の樣な形で指導してゆく、ゆき方などが、適切に示されてある。かう云ふ問題には凡てが具體的に實際的に述べられねばならぬことは、云ふまでもないが、ゲブハルト博士の示されてゐる所は確かに徒らではない。如何に正確に凡てのことが考へぬかれてあるかと云ふことは、氏が、ラヂオ講演者は、一人又は二、三人の實際の聽者を、マイクロフォンの部屋へつれてゆき、同じ空間を分つ人間に向つて、實際に語る樣にすゝめてゐることを以つても明らかである。

余が「伯林每日」（一九二九年七月五日、三一二號）に載せた論文は、その當時博士のこの論文をまだ讀んでゐなかつたのであるが、殆んど博士と同意見であつた。その際、民衆大學事業を、旣に全く崩壞せるものと迄は云へないにしても、兎に角、衰亡への道を辿りつゝあるものと見る、一般大衆の見解に就ても、自分の考へを述べたのであつたが、これは、私自身が民衆大學に對してかうした意見を持つてゐるかの樣に誤解せられた。然しこの誤解に就ての錯解は第二の問題である。第一に考へねばならぬことは、我が社會敎育の現狀を明かになすことである。これを明らかになして初めて、最初に述べた問題に直面するのである。

民衆大學の實的發展　大戰の直後勃興した民衆大學繁榮の期待が、滿たされなかつたことに就ては、多くの言を費す必要はない。（官廳の示した統計によつて見ても解る）　大部分のものは實を結ばなかつた。而してこの事業は、殆んど到る處に於て、量的なものから質的なものへ移つて行つた。從つて時としては、優秀な團體が――理想的な場合には、民衆の凡ての階級の中から、生れて來た。そこには、熱心な講師が居つて、丁度、精巧な樂器を奏でる樣に、この團體を導き、一面的教授、或は餘りに各方面にわたる叙述の危險を避けて、材料によつて生々とした思惟と研究にまでの能力を覺まし成熟せしめた。十年來、絕えず十二のライン地方の民衆大學（特にバルメン及エルベルフェルト）に職を奉じて來た著者は、この發展の跡を、その諸相を、或は悲しい氣持で或は又非常な幸福を以つて體驗して來て居る。一例を擧げると、民衆大學内に於て、勞働者のみよりなる絃樂クワルテットを以つて、ベートホーヴェンの凡ゆる四重奏及びその他多くのものを、よき精神的準備を以つて公演することが出來た。又同じ樣に余は、バッハの六ツのソロ、ヴァイオリン、ソナタをバッハ講習會に於て演奏したが、かうしたことは、誰も知つてゐる樣に、たゞ偶然に混成された「群衆」でなく、事實、最も深い意味に於てよく啓發された團體、共同團體を俟つて初めて可能である。

斯くの如き大衆的量的なるものよりの發展を是認しなければならないこと、又實際にホーエンロート同盟（Der Hohenrodter Bund）が長いこと行つて居る樣に、全く自由なもの、中心的なものに進んでゆく必要のあることは、疑の餘地がない。このことは、私の確信してゐる所に從へば、私が「伯林毎日」の紙上ではつきりと指摘した、あの種の教育、最も大きな危險を持つてゐるであらうと思ふ、あの樣の教育に、漸次、影響を及ぼすであらうし、又及ぼさなければならぬと思ふ。團體や組合などが、彼等の教育を獨占し、その團員や組合員に對して、民衆大學を訪れることを阻む――確かにこれは、自分の團員や組合員が、他の「傾向」に感染することによつて、彼等本來の確信を搖がされはしないか、創造的民衆階級の生成と共に、その剛直な姿勢を失くしはしないかと云ふ、多少は無意識な不安から來る場合が多い――のを、私はこの種の教育のせいに歸したのである。

ラヂオ教育の必要　こゝに於て問題が生ぜざるを得ない。即ち必然的な發展のまゝに、民衆の大範圍が（間もなくさうなることゝ思ふ）、同時に民衆となることである所の、かの社會教育に赴くことを阻まれる時、我々は、この悲劇を出來るだけ緩和し、その損失を出來るだけ他の場所に於てとり戻すために、我々の使用を待つてゐる、あの技術的、民主的方法を利用してならないであらうか。我々はゲプハルト博士と共にこの問題を無條件に是認したい。而してラヂオの如き技術的方法を使用すると云ふことと自體が既に教育内容の淺薄を伴はねばならぬかの如く云ふのは、私の所論に對する、非常な誤解である。こゝには、恐らく何等かの失望又は過去の苦い經驗から、技術の問題を餘り早く片づけて了ひ、從つて凡ゆる大衆的なものを餘り簡單に片づけて了ふ考への誤りがあるのである。これと全然同じことを、印刷術に對しても云ふことが出來る（しかも、今日では、如何なる民衆大學も、この印刷術なしには、滿足にやつてゆけやしない）。本や民衆大學要覽が、ラヂオ講演より溌溂としてゐるなどゝは、少し物の道理を心得た人であれば、誰も考へはすまい。たゞ一つの問題は、この兩者から何が生れるかと云ふことである。この問題に對しては、我々は、兩方の場合とも、本當に責任を持つた社會教育家を持つてゐる。このことは、云ふ迄もなく、信頼、信仰の問題である。私は信ずる。我々は、我々の教師や社會教育家に於て、ラヂオも亦眞の社會教育に役立つものであると云ふ根據を持つものであることを。

（Freie Volksbildung 1930, Heft 1）

民衆大學寮に於けるラヂオ

ギュンテル・クロルチヒ

本誌に於けるこれ迄の論爭が示してゐる様に、ラヂオの教育的價値に關する論述は、目下世の注視の的となつて居る。但しこれらの論述の多くは、何れも理論的、教育的方面の中心に偏るゝものである。余はこゝで、その理論的論述を續けようとは思はない。寧ろ、民衆大學に於て試みたラヂオ聽取の實際經驗を、一度世に公にするのも、大切なことではないかと考へる。

大學寮に於けるラヂオ利用の便益　純粹に外的方面から考察して、民衆大學に於ては、特にその寮が、ラヂオを教育活動の中へ導き入るゝに適してゐることは疑ない。なぜならば、寮は聽講生を集めて、たゞに講義を聞かせるばかりでなく、長期短期の共同生活をなさしむるからである。寮に於ては、講義の時間割が自由なため、時折ラヂオのプログラムを見て、かなりな時間をこれに割くことが出來る。更に寮は、青年に勸めて、餘暇にラヂオを聽取せしむることが出來、且つその際同時に、聽取によつて受けた影響を統制することが出來る。最後に民衆大學寮は、その組織の點からして、常に餘暇の時間を共に過す様になつてゐるので、みんなが一緒に寛いてゐる時も、ラヂオを教育的に利用することが出來る。かうした外的な諸條件から考へて見ると、ラヂオの社會教育的利用の可能性は、民衆大學寮に於て、最も多分に且つ有利に見出される様である。

テムペルホーフ民衆大學寮に於けるラヂオ利用の實際　以上の様な根據に基いて、テムペルホーフ民衆大學寮（Volkshochschulheim Tempelhof）の今年の講習會へもラヂオが使用された。九ケ月以上の會期があつたので、個人及全寮の自由時間に、ラヂオの利用される機會が屢々あつた。

民衆大學に於けるラヂオ聽取に、第一に差障りになる形式上の困難——講演者との人格的接觸の缺除、語る者との個人的談話の缺除——は、極めて速かに取除くことが出來た。何より必要なことは、注意深く聽くことであり、何より大切なことは、正しく理解することである。場合によつてはしつかりと書き取ることである。共同研究は聽取の後に初めて行はるゝのでなく、聽取すると云ふこと自身が、共同研究の一部と見做された。ラヂオ講演の終了後始めらるゝ研究會では、講演者との人格的、個人的接觸の缺陷が感ぜられなかつた程、殆んどの問題の場合にも、生々とした具體的な感銘が感ぜられた。

現行放送プログラム利用の困難とその補助方法　ラヂオ放送は、現在の放送局プログラムのまゝでも、成人教育に全然役に立たないことはない。放送局側にも、社會教育の考へが働いてゐることは否めない事實である。然し目下の所、單獨講演を講義に利用することは非常に困難である。單獨講演のうちで、社會學、經濟學、教育學の科目の中へとり入れることの出來たのは、極めて稀であつた。常に二つの障碍にぶつつからなければならなかつた。即ちその一つは、放送される事柄が、大抵の場合、研究の材料にすることの出來ないものであつたことである。放送される材料の一部のものは、講義で既に取扱はれ、詳しく論ぜられたもので、兎に角、極めて窮屈なものでない場合でも、單に謬つた復習としか思はるゝに過ぎなかつた。又他の一部のものは、餘りに新しい材料で、そのがつちりした内容には、倒底理解の貫徹を望む可くもなかつた。從つてこんな材料の場合には、淺薄な智識を得る危險があつた。第二

の障碍は、放送される事柄に對して、講演者自身の根本的な立場から、充分滿足を得らるゝ樣な方法で、精神的な說明をすることの不可能であつた點である。勿論かうした說明を與へることこそ、民衆大學の以て任務とする所であらうが、個々細部の點に亙つて、徹底的な討論をすることは、倒底出來るものではない。事實、講習の全期を通じて、かゝる說明の充分に出來たことは、一瞬間たりともなかつた。恐らくかうした結果は、目下の所、確かに凡ての社會教育事業に通ずる類型的なものであらう。然し若しこの結果を、何等か決定的なことの樣に考へるなら、それは全然誤謬である。この障碍は、本質的には、單に組織上の問題である。今日ではまだ、講演者の名前と表題を知らせるばかりでなく、講演の精確な構想を示した放送プログラムを、豫め社會教育者に傳達する機關は出來てゐない。學校敎師は、今日既に「學校ラヂオ」(Schulfunk) と云ふ雜誌に於て、斯樣な機關を持つてゐる。これは、特に學校に適したラヂオ講演の爲に、詳しい報道を敎師たちに傳へるのである。若し民衆大學講習の指導者が、今日の學校敎師の樣に、放送さるゝものの內で特に敎授に適當なものの、材料的內容と精神的基礎とに就て、前以て敎へられることが出來るならば、上述の二つの障碍は、大部分除かれることと思ふ。斯くなれば、夫々の敎授の立場から、適當なものを選ぶことも出來、それを特別な共同研究に連絡させることも、最早や困難ではなからう。又斯くなれば、材料的には、よく適合した極めて有用な補充を、本來の敎授に加へることが出來るし、精神的には效果ある解說をなすことが出來るであらう。

ラヂオ利用による實際的政治敎育 テムペルホーフ民衆大學寮に於ては、特別な方面には、既に今日でも、ラヂオを利用することによつて、敎授に一種獨特な形式を與へることが出來た。即ち一定の敎案に從つて進んでゆく學課の側ら、政治上の時事問題を、共同研究の對象になすことが試みられた。そしてこの機會に、政治的な出來事が、それ自體の構成の上から明白にされ、今日の政治的な關係や連結が明かにされた。又この機會に色々な政治上の意見の可能なことが說明された。政治敎育のこの形式に於ては、固定的な敎案を棄てることが出來た。こゝに於ては統一的な構成は、自ら政治現象の力學から引出された。かうした形式の敎授に、ラヂオが度々揷入されたのである。そしてかゝる現代の具體的な政治的出來事に關する敎授に對しては、ラヂオのプログラムは秀れたものを提供してくれた。かうしたことは重要な政治上の會議の放送に關しても同樣であつて、斯る放送は聽取後直ちに討論に附された。一般にこれ迄述べて來た樣な時事問題や政治問題は、その方面の豫備智識がないと、充分に理解出來ない。從つて新聞に出てゐるだけのことでは、しつかりした批評の困難な場合が少くないが、さう云ふものが却つて、民衆大學の講義には適當であつた。なぜなら聽講生は、かう云ふ問題にぶつつかると、どうしても自分一人で研究して見ざるを得なかつたからである。即ち思惟や研究は、ラヂオ講演によつて、決して取除かれることなく、益々必要とされた。かうした事情が、民衆大學寮に於ける共同研究に對して、最も興味ある出發點となることは明かである。政治上の問題では、講師の持つてゐる確信と全然反對な立場もあるわけであるが、共同研究に於ては、かう云ふ見解の對立にも徹底的に觸れてゆき、詳しく論ぜられる。斯くして、政治上の智識のみならず、政治的確信を與へようとする政治敎育に、これ迄講師の講義だけでは倒底達せられなかつた程の徹底が期せられたのである。又同じ程度にラヂオは、政治的實際問題の仲介者として價値多いことが認められた。これ迄かう云ふ場合には、參考として書物とかパンフレットとか、何か適當な印刷物を示すに止まつてゐたが、講習生の中には、詳しく讀む者もあり、ざつと目を通すだけの者もあり、その利用の程度はまち〳〵で、これによつて共同研究に對して統一的な前提を立てることは、極めて困難であつた。然るに政治的ラヂオ講演を一諸に聽取することによつて、わけなくこの根底を得ることが出來た。政治の特性、大切

な政治の常識、相對立する政黨相互の限界、外交の形式――これ迄勞働者には非常に理解し難いことであつた。かう云ふ樣な問題を眼前に展開するに、ラヂオは非常にすぐれた實物材料を提供してくれた。この場合、この實物材料が講習生にも講習指導者にも、全く同じ方法で達したと云ふことは、非常に重要なことである。これ迄、指導者は材料を扱ふに當つて、最初から文献を詳しく研究してゐるので、かうした前提は、實際これ迄は得られなかつたのである。既に考へ拔いた頭を以て講習生の前に立ち、動きのとれない考へをもつて講習生に講義をしたのである。これまで一般に社會教育凡てに存してゐたかゝる困難は、ラヂオ聽取によつて完全に克服された。そして既に今日では、ラヂオは民衆大學に於ける獨立の一機能となつてゐる。現在の放送プログラムでも、充分、共同研究に獨特な特徴を與へることが出來る。これは單に大學寮に對してのみでなく、夜間民衆大學に對しても適用されると考へられる。講師と聽講生とよりなる團ゐの周圍に引かれた境界線を越える必要のある時には、夜間民衆大學に於ても、ある範圍では、ラヂオの放送する材料を、共同研究に利用することが出來る。

ラヂオによる音樂鑑賞教育　勞働者自身云つてゐる樣に、彼等には藝術鑑賞の道が閉されてゐる。このために、ラヂオを聽く機會に、音樂作品の二、三を說明することを試みて見た。この場合に於ても、聽講生の關心は、非常に生々としたものであつて、それで、民衆大學の新しい教育が、こゝにも亦可能ではないかと考へられたほどである。然しそれは、一つ〱の音樂作品に就て、何等かの知識を廣める爲にでも、大衆に音樂を近づける爲にでもなく、その藝術價値の純個人的鑑賞の爲にである。感銘を受けることは、ラヂオ裝置の前に於ても非常なものである。それで若し斯樣な聽取を、何か完全なものとしてゞなく、一つの精神的な準備と考へるならば、機械化、淺薄化に陷ることも防がれるであらうし、又理智的な判定の結果ではなく、生々した個人的な感情の充實から生れる、藝術的なるものへの融合を期待出來るであらう。

ラヂオと大學寮内の餘暇利用　同じ樣な見解から、民衆大學の餘暇利用にも、ラヂオが用ひられる。但し聽取後、聽取したことと關連して語られる話は、全く打ちとけた談話でなければならぬ。外見上は一般に家庭の團欒に於てラヂオの聽取されるのと似てゐるが、精神的な方面に於ては根本的に違つてゐる。こゝでは價値問題が主にならなければならぬ。カフェー音樂やジャズは、現代人の生活力を廣い流れの中へ導く。そして大學寮のリズムも亦これに近づいてゆく。元來、人間の教育が、環境の影響の下に完ふされること、そしてその影響の方が、凡ゆる教育より深刻なものであることを考へて見ると、ラヂオ聽取者の存在が、民衆大衆に於ける教育要素に、何を齎らすか、察することが出來ると思ふ。勞働者の精神的な姿は違つて來るであらう。勞働者は、これ迄享けることのなかつたものによつて、精神的に養はれるであらう。そして民衆大學自身も、かゝる新らしいものが傳達されると共に、新しい分野に展開し、新しい充實した生命を持つに至るであらう。

今後の希望　何よりも第一に、民衆大學の講師が、ラヂオを教育機關として利用することを學ぶ必要がある。擴聲器の前の特別な設備は、民衆大學自身の持つ獨特な性質から考へられなければならぬ。又聽取と關連した共同研究會をよく指導してゆくことも考へなければならぬ。而してこれと同時に、聽講者の側にもしなければならぬことが色々ある。第一彼等は、ラヂオを娛樂機關と見る傾向がある。又單にその音にのみ空虛を響かせてゐることも屢々あると云ふ。其れ故に民衆大學は、先づ、ラヂオを教育機關として、一般の聽講生に理解せしめなければならない。かうした努力の效果は決して些少ではない。一面には教育的に生產的な聽取が出來る樣になり、又他面には、ラヂオ放送の質に非常な影響を與へる。なぜならば、ラヂオ聽取者の間には、精神的に熱心に求むる者が大勢ゐると云ふ確信が、

放送する者の側に強くなければなる程、そのプログラムも、その努力も、益々良くなつてゆくであらうと考へられるからである。

（Freie Volksbildung 1930, Heft 2）

英國に於ける教育放送

一、放送事業の發達　無線電話は、世界大戰直前に始めて實施し得る程度に完成されたが、これが一般娯樂の具に供される爲には、大戰の爲に四ヶ年遲れることになつた。其後の發展經過の極く大要を辿つて見れば、

一九二〇年二月　一日三〇分間宛二回のプログラムで、ニュース、唱歌、音樂等を漸次放送するに至つた。

一九二二年十二月　英國放送會社（The British Broadcasting Company）が設立された。

一九二七年一月　勅許に依り、公益法人英國放送協會（The British Broadcasting Corporation）の組織に改められた。

一九二八年　聽取許可數は、一九二三年九月には十六萬以下であつたのが、此年には二百二十五萬以上に達し（この内盲人の聽取者が一萬數千人ある。盲人は無料である）。ラヂオを聽く人の總數は、一千二百萬人に及んでゐると考へられる。

その後、協會は二重放送プログラムの制を設け、全英國内の聽取者をして、安價で簡單な受信機を用ひて、成る可く良好に聽かせることに力めてゐる。

二、經費問題　現在、最も廣義に於ける教育（その中には、學校に對するもの、一般講演及び特殊成人教育施設をも含む。）に支出する割合は、總支出の約五分七厘で、此の割合は決して大きくない。

一九二七年一月一日、郵政局長官と新設英國放送協會との間に、一種の契約が締結され、これに依つて、協會は向

後十年間或る一定の制限内に於て、放送事業を管理すべき許可を得た。この契約中、經費に關する規定を見ると、聽取料（一人一年の聽取料は十志）總額の一割二分五厘は徴收費及監督費として郵政局に留保される。この外、聽取者數、一百萬以下は一割、二百萬以下は二割、三百萬以下は三割、三百萬以上は四割の標準で更に控除をしてゐる。その爲、收容すべき人數が増加し、プログラムに對する要求が漸次複雜になるに拘らず、收入はその割合で増加しないことになる。協會の自然に増加し行く收入に、上の如き累進的控除をなすことに對する、郵政局の釋明は、完全な放送事業を行ふための施設費は、一定額であると假定する外はないであらう。

現在の規定に依ると、聽取許可によりて徴收する金額、即ち、協會取得及び郵政局及國庫の保留金は、左表の通りである。

A欄は、一九二八年三月三十一日現在の概數、B、C、D欄は、聽取者數増加に從ひ、上の規定による結果を示すものである。

	A	B	C	D
一、年月日	一九二八・三・三一	一九二九・三・三一	一九三〇・三・三一	一九三一・三・三一
一、聽取者數	二・五〇〇・〇〇〇	三・〇〇〇・〇〇〇	三・五〇〇・〇〇〇	四・〇〇〇・〇〇〇
一、徴收金額	一・二五〇・〇〇〇磅	一・五〇〇・〇〇〇磅	一・七五七・〇〇〇磅	二・〇〇〇・〇〇〇磅
一、協會に支拂はるべき金額（前年三月の數字に依る）	八二四・三四〇	八九六・八七五	一・〇五〇・〇〇〇	一・一八一・二五〇
一、郵政局保留の一割二分五厘	一五六・二五〇	一八七・五〇〇	二一八・七五〇	二五〇・〇〇〇
一、國庫保留の金額	二六九・四一〇	四一五・六二五	四八一・二五〇	五六八・七五〇

三、放送プログラムに就て

放送事業が主として娯樂の手段として發達して來たことは首肯出來る。從つて、最初から教育放送を主眼として聽かうといふ人は、比較的少數であらうが、然し、今迄聽いた教育放送に趣味を感じた人々で、將來益々之を聽かうと希望する人の數は、遙に多い譯である。從つて前の少數者と、後の多數者の双方の希望を滿たさせてやることは、最も主要な事柄である。然らば如何にして、放送番組の制限內で此の目的が達せられるか、又一見相衝突する如く見ゆる、教育と娯樂とに對する二種の要求を、如何にして融和して行くか。最近の英國に於けるプログラムの時間比率は、左の如くである。

放送時間の六割二分　音樂。

内
- 一割　古典音樂
- 一割二分　上品な輕い音樂
- 二割六分五厘　軍樂や音樂等の通俗音樂
- 一割二分三厘　舞踊音樂

〇割二分　ドラマ（古典劇を含む）

二割〇分八厘　講話（ニュース・朗讀・時事談を含む）

一割五分二厘　教育講演（大部分は學校相手）

以上の數字は、プログラム中に於ける各種目の性質狀態を考慮して、調節配置されたものである。即ち「講話」の部類に來る大部分のものは、七時四十五分から十一時に至る主要夜間放送の開始前に放送せられる。例へば學校相手の放送は、比較的他の放送とかち合はぬ時間を選ぶといふ風に。

協會のプログラムの方針は、その範圍を次第に擴げ、新しい經驗を積み、聽取者が理解を増し喜を加へる様に努力する點にある。とりも直さず折にふれ時に臨んでの教育なのである。ニュース、論爭等に就いては努めて中立の態度で放送する。英國放送會社が設立された時、郵政局長官はプログラムに對して全般的檢閲を行ふことになり、宗教、政治、工業の論爭に關する一切の事項は、放送してはならぬと規定した。元より、永久に禁止する意向ではなかつたが、最初の内のプログラムは、無事無難な常道を踏ましめ、敵意や抗議を喚起することを避けた方が賢明であると感じたからに過ぎなかつた。會社が協會となるや、郵政局長官は試錬期間を命じ、其間も論爭事項の放送を避くべきことを命じた。其後、この禁令は緩和せられたが、その運用方法は今後の發展に期待されるのみで、今はたゞ、識者間に論爭事項――辯論と討議――の區域が尙一層擴張せられ、之に依つて一般的興味を有する主要問題が多く取扱はれることを希望されてゐるに止まつてゐる。

四、放送委員會と文部當局 英國放送會社は、夙に、教育專門家及び文部當局者の協力を得るに努力した。一九二三年の初めに、各地に放送局が開設されると同時に、諮問委員會（Advisory Committee）が設けられた。各放送局の開始と同時に、教育の現狀及びそれに對する會社の意圖方針は、委員會に提出された。委員の顔觸は、團體の指名に依つて、地方學校の校長職員又は大學代表者、文部省の局長書記官等から撰ばれるのである。文部省へも亦上申して、本事業に協力せられん事を依頼し、文部視學官中の一名を、親しくロンドンの諮問委員會に列席するやうにした。其後間もなく、會社の教育事業は、會社の本部に專任の部員を設けて、攻究する必要を感じたので、常務理事は時の文部大臣と會見の結果、上記文部省からの代表者であつたJ・C・ストバート氏をこれが專任にすることに成つた。氏は初め期間一年間の約束であつたが、其後協會の教育部長として就職した。

一九二四年の夏から學校と連絡を保つて、組織的實驗を開始した。この實驗は、各中心地の教育諮問委員會（Education Advisory Committee）と協力したのであつた。同年九月、夜間プログラムに於て、教育の目的に放送を利用すべき組織的企畫をした。協會の教育部長は、文部省成人教育委員及び英國成人教育學會と協議した結果、右會合に於ける提案を實行すべく定規のプログラムとして、講話を其秋にやることにして、梗概を印刷に附して發行した。期間は十月からクリスマス迄としたのであつた。このプログラムの講話の内には、サー・ハルフォード・マッキンダーの「國家論」、サー・ウィリアム・ブラッグの「音響學」、ピレイア・ベロク氏の「旅行談」及「英國民謠」、舞踊協會の「民謠及舞踊」に關する挿繪附連續講話を編入した。尙ほ保健省、農務省等の官省と連絡して、公務に關する「講話」もあつた。之に對しては、相應に反對もあつたが、「講話」に對する興味は、着實に增加する證跡を見せ、印刷プログラムの賣行高は、トン〳〵拍子に激增し、其の數每種約二萬部に達した。

一九二七年の復活祭の時に至り、明確に教育的なもの以外の講話を、別の課の所管とし、教育部長の下に、一主任と一助手とを新任したが、これは成人教育部を發達せしめるためであつた。一週五回午後七時二十分から二十分間宛の連續講話と、主として婦人會の爲めの每週一回午後の連續講話と、ダヴェントリーのみで行ふ每週一回午後八時から三十分宛のものを編成した。講師の話を補ふ爲に、「研學の栞」（Aids to Study）といふ小冊子を發行し、之には詳細な註釋や適當な書物の案内等を入れた。而して、このプログラムの發行高は每種六萬部に達した。

最近に至つては、成人教育のプログラムに迄手を伸すに至つた。其の反響は驚く程で、學校用冊子と「研學の栞」との一九二七年秋期に於ける販賣部數は、約二十五萬部にも達した。

五、教育放送の種類

（一）、學校放送　一九二四年に組織的實驗に着手してから、翌年には、每日授業時間中に規則正しく、百ばかりの學校に對して、放送されるに至り、その數は次第に增して、昨今は三千から五千位にも及ぶに至つた。その大部分は小學校である。一九二七年にはケント郡の敎育當局は八十程の學校に對し、放送の價値に就き、問を出した。翌年その結果をカーネギー財團が印刷したが、これによると、一度放送を受けた學校は皆、やめられないと答へてゐる。

學校との關係は、尙、通信、ラヂオ試驗、懸賞又近頃は書取等によつて、結付けられてゐる。更に敎師が放送者と共同して敎へる爲に、特別な印刷物が出來てゐる。

現在では學校放送の爲の中央顧問が置かれてゐて、會頭には前文部大臣であつたオックスフォード大學長がなつてゐる。

（二）、成人敎育　協會は初め、成人敎育としては、只講演をなしてゐたばかりであるが、後には組織的に行ふ樣になつた。科學的な講演が一番人氣があつて、質問の手紙が舞込む。そこで「硏學の栞」のやうな小冊子を印刷してゐる。

一九二六年十月、英國成人敎育學會は、放送協會と他の多くの成人敎育團體とが協力するに一番よい方法を硏究する爲に、共同の硏究委員會を作らうと放送協會へ申出た。それから一九二八年、シェフィールド大學のハドウを會長とした、この委員會は、ラヂオは甚だ大きい意義を持つてをることを述べ、それによる成人敎育の爲に國民委員會を作るべきことをすゝめた。それに從つて、この會も出來、會は講演、講義放送のプログラムを定め、又、クラブ、硏究會或は圖書館で集まつて聞くことを奬めてゐる。此等の集りには篤志の指導者がゐて、皆を導き、又聽いた事柄について、話させる。近頃ではこの樣な集りは、まだホンの初めであるに拘らず、四百を出てゐる。

（三）、靑年敎育　一九二七年、文部省に於ける年少者團體委員會（Juvenile Organizations Committee）の年會に於て、靑年敎育の爲に設備されてゐるクラブ等の敎育事業に、ラヂオの援助の能不能の問題に對する協會の調査を歡迎すといふ決議をした。而して、年少聽取者のために、特に起草せられた講話の見本數種は、熱誠なる歡迎を受けた。一九二八年四月と六月とに於ける年少聽取者に聽かせるために計畫せられた特設連續講話は、種々な全國的團體の協力を得て、受信に成功し、その賞讚を得た。政府最近の一報告は、義務敎育修了後の年少者の爲に一層適切なる設備を設くるの緊要なることに注意を喚起してゐる。

（英國放送協會成人敎育放送硏究報告並に一九二九年七月ジュネーヴ國際敎育會議に於ける英國放送協會敎育部長、J、C、ストバート氏の講演に據る）

ロシヤに於けるラヂオの利用

サミュエル・ハーパー

宣傳機關としてのラヂオ　十月革命の首腦者達は、嚮きの、千九百五年の經驗並びに一九一一年七月の武裝示威の經驗によつて、總ての通信機關を統制することの必要を感じた。それ故に、當時存在の無線通信機關は、第一に占領すべき目的物の一つであつた。その當時、首府に於ける出來事を全國に放送し、又ロシヤの革命を廣く世界に宣傳する目的から、大放送局が幾つか利用された。ラヂオの發展といふことに對して忽ち世の注意を惹いたのは、數箇の理由を以てゞある。先づ世界革命の目的から、「總ての民衆に」呼びかける無電通報を、最も廣汎に利用する暗示を得た。ラヂオの前には他の國民との境界が存在しなかつたし、又、少くともそれら音信の幾らかは、他國の勞働團體へも達するであらうと信ぜられた。露西亞國內でも、處々の主要地へ音信を傳へるに、他の方法では不可能であつた場合にも、無線通信のみはそれを可能ならしめた。電信電話の通信網は不充分でもあつたし、且つ主要地間に限られて居たが、其等の通信網すら、革命の混亂の爲に大部分破壞された。內亂の發展と共に、革命が成功した諸要地との間の接觸を保つ爲には、中間の敵地を通過せねばならなかつた。そこでモスコー及びレニングラードの本部から、他の都市の共產黨へ通ずる、一般訓令や特殊命令さへも、成功の報道と共に、實際無線電信を使用する樣になつた。革命の目的及び方法は、集團行動を必要とするが故に、出來る限り廣く明らさまに知られることが必要なのであつて、何等秘密の必要は無かつた。

革命が軍事及び政治的方面に於て凱歌を奏し、敎化の方面に注意を轉換することが出來たときには、既にラヂオ通信は實際化せられ、その機關は進步してゐて、強力なる放送局と中繼局とを設置して、全ロシヤ國に行き亘らせやうといふ計劃があり、又事實、大規模な組織の最初のものが幾つか設置されてゐた。(一九二七年迄にはソヴィエット聯盟は約六十の放送局を有してゐたと推算されてゐる。) 次いで遂行された敎化的革命に於ては、ラヂオは、民衆中の多數の無筆者敎育の爲に使用され、讀書力の無い人々に迄も手をのばすことが出來た。ラヂオは文敎普及といふことに對しては一種の刺戟物として作用すべきものと信ぜられ、又、ラヂオを介して聞いた思想によつて喚び起された興味は、やがて、新聞紙を讀まうとする樣になるであらうと信ぜられた。煽動の爲にも宣傳の爲にも、ラヂオの價値は疑ふの餘地はない。

ラヂオ普及の狀態　一九二七年迄には、革命十周年記念の祝賀の一つとして、ソヴィエット聯盟の各村落に、ラヂオ聽取の裝置が設けられる樣にと希望された。當局者の記錄に依れば、一九二七年九月一日現在で、露西亞全國中僅かに二一萬三千位しか聽取裝置が無く、內一割は村落のものである。然し聽取裝置をなすには、總て、ソヴィエット法律に依る登錄をし、登錄稅を納めねばならぬ爲に、皆が皆登錄してゐないといふことも、實數は當局の統計に表はれたるものより多いことも、大體うなづけることで、最近一記者は、聽取器の數は大抵五十萬位であるらしいと計上してゐる。しかし、此の數字でさへも、他國の數字に比し、又、計畫と努力とを以て今後發展すべきラヂオの使用數に比し、甚だ少いものであることは、共產黨員自ら知つてゐる所である。モスコーから三百哩以內の村々を一週間以上訪問して、私は只一つのラヂオを見たゞけである。その一つといふのは、村の小學校敎員のもので、居室に取付けら

れた鑛石式のものであつたが、餘程注意力を集中してやうやくのことで、モスコーのが聽き取れる位のものであつた。これら村々の中心地域へは、時々携帶ラヂオが持つて來られると、私は聞いた。

　聽取々付に依り、地方の部落へ通信することは、技工上の困難に妨げられた。又、電力の缺乏が此の問題をむつかしいものにした。それにソヴィエット工業會社の作り出すセットは、品質甚だ劣等で、電池の故障とか、裝置の絕間なき破損とかいふことは、農民達のラヂオに對する信用をなくした。農民通信員の報ずる所に依れば、二、三週間にして「我々の擴聲器は默り込んでしまつた、そして農民たちは、役にも立たないものに金を費すことを苦にし、こぼしてゐる」といつてゐる。この問題は、少くとも當分は、もつと簡單な、めい〳〵に取付ける鑛石式を主とすることの得策だといふことを暗示した。ラヂオを民衆化する爲めには、組織だてられた努力がなされて居る。「ラヂオの友」(Friends of Radio) といふのは、團體形式としては寧ろぼんやりしたものであるが、勞働者クラブの集りの內にも、村の讀書室にも、それから、共產黨員集合所にすらも、又學校の中にも、ラヂオ會が出來、會員たちは、擴聲機を設備してそこへ集合し、放送を聽きたいと熱望し、その爲めに寄附金を集めてゐる。彼等は、ラヂオの技工的方面をも研究して居るが、多分自分で聽取器を組立てゝゐるであらう。最後に彼等は、勞働者や農民に訴へるものは如何なる放送であるかに注意して、ラヂオのプログラムの內容を左右し、同時にその項目の內容を勞働者や農民にも理解させ判斷させる仲介者としても盡力する樣になるであらうと期待されてゐる。斯くの如く彼等は、ラヂオを目的を以て使用する宣傳者であつて、一つの雜誌を發行し、このグループのラヂオ放送に對する技工的方面の興味を喚起し、智識を進める樣にしてゐる。その雜誌は、プログラムの發表と其の題目についての一般的批評をも揭載する。そして此刊行の主要なる機能の一つは、ラヂオ聽取者達の間に適當なる「イデオロギー」を廣めることにある。

モスコーに於ける二大放送局

モスコーの二つの主要な放送局は、インターナショナル共產黨及びソヴィエット商業從業員組合のもので、後者は、モスコー市部ソヴィエット勞働組合と、モスコー郡部の勞働組合支部とで使つてゐる。インターナショナル共產黨員の放送局は、この二つのうちでは大きくもあり活動的でもある。每週のプログラムは總ての新聞紙に載せられ、日曜日には朝から一日中放送が續けられる。平日は午後四時から初まり、土曜日には全く放送しない。農民新報と勞働者新聞とは、その日の出來事を一時間づゝ放送する。ラヂオの友といふ團體は、エスペラント語研究の爲に、規則正しくつくして居る。エスペラント語は、ソヴィエットのラヂオ熱心家に國際的放送用語として採用されてゐて、一週一日一時間がエスペラント語で「外國報道」の爲めに用意されてある。音樂會は、農民コンサートとか兒童コンサートとかいふ標題で放送され、又、一般の音樂會もある。講演は、或週のものを例として擧げて見れば、動物結核豫防法とか、馬の飼育とか、蜜蜂の疾病とか、人體神經組織とかの題で放送されてゐる。それから又、手當り次第に一週のプログラムを引用して見ると、「アメリカ勞働組合運動」「赤軍の國際的重要さとその任務」といふ如き、全然政治的な話もある。勞働組合の地方委員へは、選擧の行はれる時には選擧に關して、又、勞働組合が時に應じて實際に行ふ活動に就て、報道が放送される。それから、共同社會の組織や一般經濟上の問題についても講演される。

　これらのラヂオ・プログラム中には、クレムリン宮殿中の或塔にかゝつてゐる大時計の、正午と夜半の時鐘が必ず入れられてゐる。郡部の聽取者達は、プログラムのかうした點に格別な興味を持つとのことであるが、それは、ソヴィエット政府の政治中心に接觸してゐると感ずるからであると云ふ。郡部の聽取者の爲に特に用意してプログラムを放送しやうとして、特殊な研究所を作るよりは、寧ろ、モスコーに起りつゝある最善な事柄を放送資料に採擇する方が得策

であつた。かうして、よりよき質のものが放送されるものと、信ぜられてゐる。此事は又、ソヴィエット統制の政治中心であり又敎化の中心であると、明かに認められてゐるものゝ感化力を擴める助けとなる。郡部聽取者に、單にモスコー市街の響を聞かせて、暫く活動中心地に居る感じを與へようとする事は、早い頃から實施されたことである。他の大都市にも地方放送局がある。これら地方放送局のプログラムは手に入つてゐないが、槪してモスコーのプログラムに準じたものであらう。モスコー放送局を中繼することは、特別の場合か儀式の外はされないが、將來はいつも中繼され、放送と中繼とによつて、モスコー市と全露國とがお馴染になることが希望されて居る。

大都市に於ては、放送や擴聲は、特別な儀式に廣く用ひられる。大きな勞働者クラブへ、放送局からの直通線を設けることは、モスコー市では緖に付いて居るが、定めしこれは他の大都市に於ても用ひられるであらう。この方法で示威運動指導者の演説や、ソヴィエット特別の祝賀期間中の演説は、一層多數の民衆に到達する。革命大祭日にレニン廟で爲された演說が、つひにはソヴィエット聯盟の全人員に傾聽される樣にとの計劃を、人々は讀んで知つてゐる。十周年紀念祭の時、「革命の辻（レッドスクエア）」で爲された演說はデンマークにゐる人々にも聞えたと、最近モスコーの新聞紙は報じてゐる。

勞農政府のラヂオ管轄狀況 勞農黨の檢査官は、最近ラヂオ放送會社を調査した。會社といふのは、ラヂオ器具裝置の專賣權を有し、又、放送內容の組立てについても獨占權を賦與せられてゐたものである。此の會社は啻に甚しい缺損を生じたばかりで無く、業務取扱上に於ても頗る事務的でなく、又違法的怠慢を敢へてし、其の結果として解散された。勞農黨中央委員會の煽動的宣傳部は、その時、ラヂオの問題に關して特別な相談會を開き、放送事業の組織改造に關して、數個の提議をなしたが、その何れの提議にも、イデオロギーの指導に對して特別な個條があつた。

何となれば、以前の組織には、目次內容の點に就ても亦不滿足であつたからである。けれども全國組織を設けることが得策であるといふ事に關しては、意見の相違があつたけれど、兎もあれ、ソヴィエット聯盟の國民代表會議の實行部に附屬した機關が創設せられた。この新しい官營放送局は、民衆聽取者のことを、より周到に考究することを根本として、放送プログラムを準備するのである。それは、勞働者クラブや村の讀書室に於ける集合聽取の發達に特に留意して、そして、ラヂオ聽取器の普及をもつと系統的にすることの根柢のもとに、諸官廳と、他の勞働組合の如き團體との協同を得んとするものである。

(Samuel N. Harper : Civic Training in Soviet Russia, 1929)

參考書

著書

英國放送協會編 東京中央放送局譯　成人教育放送研究報告　（昭和四年五月）

英國放送協會編 東京中央放送局譯　英國ケント州に於ける教育放送實驗報告　（昭和四年十月）

中山龍次氏著　放送事業と社會　（昭和五年六月、東京中央放送局）

東京中央放送局編　放送事業の使命を論ず　（昭和三年十月）

ラヂオ協會編　日本ラヂオ總覽　（昭和四年十二月）

日本放送協會譯　英國の學校放送　（教育放送調査資料第一號、昭和五年七月）

Carnagie United Kingdom Trustees : Educational Broadcasting Report of a Special Investigation in The County of Kent during The Year 1927.

The British Broadcasting Corporatoin : New Ventures in Broadcasting, a Study in Adult Education, 1928

〃 : Handbook, 1929

〃 : Broadcasts to Schools, 1930

〃 : World Radio Map

〃 : B. B. C. Yearbook

Jahrbuch der Deutsche Welle G. m. b. H.

Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht : Rundfunk und Schule, 1925

〃 : Rundfunk-Empfang, ein Ratgeber für Eltern und Erzieher, 1929

Reichs-Rundfunk-gesellschaft : Rundfunk Jahrbuch

雜誌

日本放送協會發行　調査月報

東京中央放送局企畫課發行　海外調査輪錄

仲木貞一氏　ラヂオの教育價値　（「教育論叢」昭和五年六月）

英國

The Radio Times

World Radio

The Listener

獨逸

Rundfunkschau

Deutsche Welle Funk

Der Deutsche Rundfunk,

Der Schulfunk

Funk, die Wochenschrift des Funkwesens

伊太利

Radio Wien

米國

Radio News

昭和五年十月五日印刷
昭和五年十月七日發行

文部省

東京市神田區中猿樂町十番地
印刷者　大島秀一
東京市神田區中猿樂町十番地
印刷所　太陽印刷合名會社
電話九段(33)三二八六番